萩尾望都
Hagio, moto
5月12日、福岡県大牟田市に生まれる。
別冊少女コミック連載の
「ポーの一族」シリーズで
爆発的人気を得て今日に至る。
1976年小学館漫画賞受賞。
名作「11人いる!」「トーマの心臓」のほか、
最新作に「残酷な神が支配する」などがある。
カバー・イラスト……………萩尾望都
カバー・デザイン……………鈴木成一デザイン室
萩尾望都
Hagio, moto
ポーの一族
1
ポーの一族
1
萩尾望都
小学館文庫
はA-11
¥562
9784091912510
1920179005622
ISBN4-09-191251-6
C0179 ¥562E
定価：本体562円＋税
ポーの一族1
青い霧に閉ざされたバラ咲く村にバンパネラの一族が住んでいる。血とバラのエッセンス、そして愛する人間をひそかに仲間に加えながら、彼らは永遠の時を生きるのだ。その一族にエドガーとメリーベルという兄妹がいた。19世紀のある日、2人はアランという名の少年に出会う…。時を超えて語り継がれるバンパネラたちの美しき伝説。少女まんが史上に燦然と輝く歴史的超名作。
小学館文庫 萩尾望都 作品
11人いる! 全1巻
スター・レッド 全1巻
トーマの心臓 全1巻
訪問者 全1巻
11月のギムナジウム 全1巻
ゴールデンライラック 全1巻
半神 全1巻
とってもしあわせモトちゃん 全1巻
恐るべき子どもたち 全1巻
ウは宇宙船のウ 全1巻
ポーの一族 全3巻
Marginal マージナル 全3巻
フラワー・フェスティバル 全1巻
感謝知らずの男 全1巻
ローマへの道 全1巻
完全犯罪 フェアリー 全1巻
イグアナの娘 全1巻

ポーの一族

第 1 巻

萩尾望都

目次

——ポーの一族　1——

ポキッ！
エドガー
メリーベル
エドガー
あっ
ぼくはここだよ
母さま

…わかれを
おしんでたの
……
また
帰ってくるさ
この村にも
この館にも
この家にも
……
そろそろ
出発だ
母さまが
呼んでた
兄さま
また
そのクセ
ポキ
ん
バラを
折らないで
かきキズだらけよ
あ

さようなら
ポーツネル
さん
どうぞ
お元気で
――悲しいこと
長年の
知り合いと
さよなら
するのは……
いつかまた
この村へ
帰っていらして
くださいね
さようなら
みなさん
わたしたちを
忘れないで
くださいね
いつのことか
またきっと
帰ってきます
この村へ
わたしたち
一族の
ふるさとへ
…どうぞ
…ご用心を
くれぐれも
お気を
つけて
〝町〟には
その
〝住人〟
には…
さようなら
ポーツネル
さん!
さようなら
さようなら
さようなら
バラの咲く村
ポーの村!

ホッ
ザワ…
きみ…あのかたたちは……
本日 午後ロンドンからこのホテルへお着きになったポーツネル男爵のご一家です
ロンドンからですって…!
まあどうりで気品が……あの服ごらんなさいましよ

いい絵だ… 一枚の完ぺきな絵だよまさに！ そう思わんかね クリフォードくん！
思いますね カスター先生
むかいの若い男が母さまを見てるよ
だまってエサを食え
エサ？ どっちがエサだか…
…
どうしたのメリーベル
…ほしくないの
いただきなさい からだがもちませんよ
…でもほんとうにほしくな…
メリーベル
失礼！
…まどなた
われわれは医師です ご心配なく
お嬢さんを… あなたがたの部屋は？

馬車の長旅で……
つかれがでたんですわきっと
お嬢さんは貧血ぎみのようですねこういうことはしょっちゅう？
……ええ……もうからだの弱い子で…
この町には療養にまいりましたの
町はずれに静かな家でもさがしてゆっくり……
なるほど
いろいろとお世話をかけて先生……
いえいえお知りあいになれて光栄ですよ男爵！
いやなお医者！母さまに色目つかって

あら 感じのいい 先生だったわ お年よりのかたは すてきなおひげで
お若いかたは ハンサムで…
エドガー……! おぞましい ……
おそうとは なんだ それは選民だ
お気にいり? じゃさっさと おそって 血を 吸ったら!
われわれの 一族に 迎えいれるの だ!
こういったらどう! われわれは バンパネラだ!
そんな人間どもの スキャンダラスな ことばはよせ!
なにを 気どって おいでになる おなじことじゃない
血を 吸わなければ 生きていけない 怪物だ!
村をでて 市にやって きたのは
新しい血を いけにえを 手にいれる ため!!
エドガー!!

おきてた？
父さまとケンカしたの？
いつものことさ
気ぶんは？
いつまでこの市にいるの？
きみの病気がなおるまで
あたし病気じゃないわ…
だまって休んどいで
ぼくの血をのむ？
悪いわ…このところいつもだもの…
たおれるまでがまんせずにそういいなさい…
ぼくはいいんだから
メリーベル…かわいそうなメリーベル
日びがあのまま過ぎていたら…
ぼくなどのためにこんなめにあわずにすんだのに…
こんな呪われた身で生きるめにあわずに…

ほう…みごとだ
ときどき馬場に
お見えになります
貿易商会の
ご子息ですよ

ス
ウ……ッ
ふ
ブル!
キュッ!

ぼくはアラン
アラン・トワイライト
ぼくはエドガー
見かけないいなおなじ学校じゃないいな
学校？
セントウィンザーだ決まってるだろう
…ぼくの一家は岬の家へひっこしてきたばかりなんだ
あの赤い家？いつ
そうつる草のはりついてる…つい昨日ね
…よそものか……！
岬はどっちの方向だろう？ぼくは迷ったらしいんだが
右！
どうもアラン・トワイライト……

ザザ
メリーベルのために新しい血がいるのなら

ザザ
それがなぜ彼のであってはならない？

波の音がうるさくてきこえなかったなんといったエドガー
学校！
ぼくたちが子どもらしい子どもでいたら父さまたちも仕事がやりやすいんじゃない
あらあたしもいきたいわ！
…例のすてきな先生たちのさ
学校へいきたいって……

エドガー
ガラスに
映ってない!!
ビクッ!
ようし
それでいい
胸にクイをうちこまれたくなかったら
つねに人間であるふりを忘れるな!
息をしているふり…脈のあるふり…
鏡に映るふり
ドアに指をはさまれたらいたがるふり…
それくらいできるやってみせるよ
ようし　ではやってみろ
…友だちをつれてくるよ
ほんと?だれを
アラン・トワイライト
つまらないわ
兄さまが学校にいったらあたしはずっとひとりだわ

男爵から話をうかがってますよ このセント・ウィンザーは
もともと寄宿制度ですが通学生も少数いていずれも良家の子息…
だれ?
転入生だって…
岬の家のさ
ミサは七時から…でもお宅に聖堂があればそこですませてきて
八時半から授業を
教本はこちらでラテン語ギリシャ語それに幾何…
遠まきか…ま第一日めはそんなものだ
——で——彼はどこにいるんだろう

…やあ！
スイ！
やあ
アラン
おぼえてて
くれてると
思ったん
だがな…

ほら先週馬場であったろう?
じゃまだよ読書中だ!
きみはどのクラス?最上級?おなじクラスで勉強できたらいいな
じゃまだよ
だれゲーテか
……
エッケルマンを読んだ彼がゲーテをなんていったか知ってる?
きみはどこからきたって?
ロンドン
なるほど転入第一日めでなにも知らないわけだ
まあねきみが学校のこといろいろ教えてくれるなら——
じゃ教えてやるぼくがじゃまだといったらどくんだ!
ぼくが右を向けといったら右を向くんだ!ぼくが声をかけるまでおとなしくしてろ話しかけたりそばをうろついたりするな!
これがこの学校のぼくの規律だしたがえ!

アラン・トワイライトの規律…?
上段にかまえてなにをしようってんだいバカらしい…
…ぼくが十八になったらうけつぐ財産は今おじが管理してて
この市この港中がその配下にあるんだ
ぼくがひとこといえば
へえ そうつまりひとりではなにもできないわけか
ぼくにそんなくちを……
きいたらなんだい気にくわないやつならぼくならこの手でしまつをつける
あの転入生なんていった
ふもうすこしましなやつかと思ってたが
バイ! 家で妹のおもりしてたほうがずっと意義がありそうだ
転入生だよ
えっあ…エドガー・ポーツネル?

おい
この足は
なんだ!
足?
どーの足?
この足
だよっ!

こいつ!!
新いりの
くせに
やっちまえ
こらーっ
やめなさい
なにを
さわいで
るっ!
すみません
ガラスを
割って
なんと…
な…ん…きみ
血が…血が…
医者 医者を
医者を……

わ
ドタ！
先生を医者につれていくんだね
馬車！
はなせよなんの…
じょ冗談でしょそんな血だらけの！
止まれぼくはアラン・トワイライトだ
どうぞ
のって！
リグビー通りのクリフォード先生の家へ！
へい

ギャッ
先生！
ン……
ケガ人ですが！
だれです……さっきの女のかた……先生の
誤解しちゃ困るよ 彼女の割れたツメにクスリをぬったんでたんなるお礼さ
へえ この町の医者は女性に親切なんですね
子どもはませたくちをきくもんじゃない
すこし首あげて…
…子ども
いやみだよ そんなせりふは十年もたっておとなになってっていうもんだ

十年たっても……
ぼくはこのままだ
時は知らぬふりしてぼくのそばを通りすぎ――
十年たってもおなじ朝を迎え――
おっとおうちのかたが見えられたようだ
失礼……
――これは男爵…！
手あてが今すんだ……
バン！
――あなた

失策はするなとあれほどいっておいたろう!
いったいそのザマはなんだ!

いいじゃないのおかげですてきな先生といっそう親しくなれたわ
それとはべつだ!
いいかエドガーそのキズは一週間はなおすんじゃないぞ

明日にはなおるよ
いかん人間なら一週間かかるキズだ先生がそういったキズ口をおさえておけ!

ずっと家にいるの学校にはいかないの?
ああとうぶんね

ふうんお友だちをつれてくるっていうから楽しみにしてたのに
シッ

友だち?友だちとはなんだ
なんでもない!

エドガー
よけいな手を
だすんじゃ
ないぞ!
わかってるよ
一族にくわえるには
成人でなけりゃ
だめだってことはね
ぼくたちを
つれてるおかげで
父さまたちは
おなじ土地に
二年つづけて
いられない
へんね
あの男爵さまの
ごきょうだいは
すこしも成長
なさらないようね
じゅう
じゅう
わかっ
てるよ!
どならんでも
きこえる
わかってりゃ
いい!
でも ぼくが
どんなに孤独か
あなたがたには
わかるまい
時が
通りすぎていく
十年たっても
おなじ朝を
迎え…

兄さま 見て!
ツタのかんむりよ
ダメだよ
メリーベル
ダメだよ!
メリーベル…
そんなに
はしゃいだら
また病気が――
メリーベル
メリーベル
へいき!
ずっと気ぶんは
いいのよ
ぼくの命
ぼくの愛
一族に
くわえたい―
なんとしてでも
彼
―アラン

ああ
ようこそ
先生
ごきげんは
トワイライト夫人
夜はよく
おねむりに
なれます
か
クリフォード
先生
ん?
アラン?
あれから
エドガーの家へ
いかれました?
彼のケガ…どう?
ほとんど
なおってると
思うが
アランや
お友だちのケガ?
おまえは
大丈夫
なんだろうね
ぼくは
そんな
乱暴なこと
やらない
信用しないよ
男の子の
いうこと
だもの
お父さん
そっくりに
なって…

ハデに男爵がおこってたからね
どうぞ夫人……なんだったら家をたずねてみたら
家をたずねる!?
そんなことできるわけないだろなんでぼくがわざわざ
でも気になるんだろう
バタン…
ケガをさせたのはこっちだけど
医者につれていったし――
出血のわりには小さな切りキズばかりだったし
このうえなんで心配してやる必要があるんだ…
フフ…
……あなたのママときたら
クリフォード先生のいらっしゃる水曜にはお顔の色のいいことったら……!
髪ゆっておけしょうなさって!
四十のおばあちゃんが!
マーゴット!
先生!診察おすみ?待ってアンお話が!
…どっちが…

これをさげておくれ
クリフォード先生にまつわりつくんじゃないよマーゴット
あーら十六の若い花咲ける娘に先生がおネツなのよ!
バカおいい十五でしょ

おまえは将来アランと結婚するんだからね
!
あのチビ!

まじめにおきき!父さんだってなんのために死んだ弟の貿易会社をついでやってると思うの
ハイハイハイマーマ!
あ

フ

これが全市に名だたるトワイライト家の実態
みながうらやみきげんをとりたがる金持ちの幸福なご子息の――

あんなやつ初めてだ…

どうしたんだろう…

もう十日以上たつのに—

エドガー・ポーツネルはまだ学校にこない

家をたずねてみたら——?

そして? ハナさきでドアを閉じられたらどうする?

学校にいかないの? エドガー

シーッ
こら
おすなよ！
あら…
こんにちは
ややや
やあ
あ　あの
兄さんの
お友だち？
かーわいい
に
兄さん？
じゃ
やつの
妹か！
エ　エドガー
いる？
なにしに
きた
セント・ウィンザー
の生徒が
こそこそと
なんのまねだ
人の家の庭に！
いるわよ
呼んでくる
わっ
呼ばなくて
いい　いい
いい！
ほんと
呼ばなくて
いいよ

あの　あの
そんな
つっかかる
なよ
ただきみが
学校に
こないんで
心配してさ
ケガが
どうなった
かと
心配？
アラン・
トワイ
ライトが
今度は
いくら
もらった
…六
ペンス
フ　正直で
いいや
さあ帰れ…
今度
この家に
近づいたら
六ペンスじゃ
安かったと
後悔する
ことに
なるぞ
…！
どうして
おいかえし
ちゃったの？
エドガー
どこへ
いくの？
ちょっとね
おまえは
家においで

王子は六ペンスで使者をおつかわしになった
バカバカしいなんてお坊っちゃんだ!
エドガー
メリーベ……!
エドガー足が早い……
家にいろっていっただろ! 帽子もかぶらずに…
だって……
ほらメリーベルあの家ね ぼくはあそこに用があるんだ 見えるだろう水色の屋根の
すぐもどるからね ここで待っておいで
ええ
おだまりアラン! なにもわかっていないくせに……!
ちゃんと葉影にいるんだよ 動くんじゃないよ
うるさい!

うるさい
うるさい
うるさい
もう
たくさんだ
たくさんだ
みんな
どこかへ
消えて
しまえ！
アラン
これ
アラン！
なんて
子だ！
あいつら
今に
みんな家から
おいだして
やる！
好き放題に
して…なにが
おばだ
いとこだ
ハン
あまやかし
すぎよ！
……

…最初は
ネクタイ
ハンカチ
次は
せわの
やける
こと
ちゃんとふくの
そのハナの頭も！
せっかく妹を
紹介しようと
つれてきたん
だから…
男まえのとこ
見せたいだろ！
キラキラ
キラキラ
メリーベル！
ああ
エド…

水をアラン！
どどうし…
貧血だよ
いつもなんだ
早く！
…水
…
なんでぼくが
…メリーベ…
メリーベル…
…メリーベル
…ごめんなさい…
血をくれたのね
…わたし…いつもやっかいかけて…
きみはぼくを許しちゃくれない
きみはぼくをにくんでいいんだ……
うち殺したっていいんだ
エドガー
なにもかもぼくのせいなんだからなにもかも
エドガーエドガーいやよ

兄さんだけよ！
いつもわたしの
そばにいて
いつも
わたしのこと
考えてくれるの
ずっと
小さな
ころから
そうよ
ずっと
小さな
ころから
わたし
知ってるのよ
なぜ村をでて
町へきたか
兄さんのいう
お友だちって
なんなのか
きみは…
それで
いいの…？
エドガー
水を！
きみはだまって
そこにいる
なにもいわずとも
そしてわかって
くれる――

あ
ありがとう
こっちへ
ドキン
ロゼッティ
ローザ
話したろ
アランだよ
ごめんなさい
お水ありがとう
……いや
……その
……べつに
単なる
水……

おはよう エドガー・ポーツネル
おはよう ひさびさだね
おはよう
おはよう!
…おはよう きたね
おはよう
きみたち 昨日あれから すぐ帰って しまったけど
メリーベルは どう?
いいよ 母さまが そばに ついてる
?
みんなきみに あいさつ しないね
あいさつなんか されて たまるか
いったろ ぼくの 規律だって
……それより
なんだい 見せたい ものって
きみ きっと おどろくよ こいつさ
ギクッ!

どこで これを
手にいれた!?
…おい!
おどろいたな
これは
ロゼッティ・
エンライトだよ
ぼくの婚約者
だった…!
——ああ
アランが
知るはずは
ないんだ
メリーベルが
まだずっと
小さくて
ぼくたちが
人間だった
そんな
…百年も
昔のことを
……まさか
おどろいた
てっきり
メリーベルの
焼き絵かと
思って…
だろう?
ぼくも昨日
きみの妹を見て
びっくりした
もういない
はずの
ローザが…

どこかで成長してて
いきなり昨日
きみの妹のふりして
現れた気が
してさ…
いつなくなったの?
六年まえ
港でちょっとした
事故が
あってね
ぼくは父と
婚約者を
同時に
なくした…
ローザは
七つだったよ
そんなに
小さい
ころから
結婚相手が
決められてた
わけ?
その子が
好きだったの?
きみは
ワザと
!
ぼくを
死ぬほど
おどろかした
バツさ
…!!
ケンカ
だっ

まったく…
きみたちは仲がいいのか悪いのか
あちっ
さ おわり! いきなさい 三度めはもっとしみるクスリを用意してるぞ
ウィンザーの生徒でもケンカするのか
やあバイクおとくいさまだよ
おまけに
母親がすごい美人だ
へ? だれ!
バイク…
心配しなくてもオレはちゃんと老先生のお嬢さんと結婚するるよ
…恋してるのか?
恋愛と結婚はべつさ
クリフォード!
ひとことぐらいあやまったらどうだ…!
…!

そんなにたいせつな絵だったの…?
たいせつな!?
ローザの絵はあれっきりなんだぞ!
メリーベルはローザじゃないきみがどう思ってるか知らないけど
それにきみは一生あの絵をしたって生きてくつもり…?
ね!?
顔がにてるってことはさつながりがやっぱりあると思うよ
そ…そう…
両方の先祖がさ二百年かもっと血すじをさかのぼってみたらひょっとしておなじ家の出身かもしれない
あんがいぼくたちもいとこ同士だったりしてさ!
まさかごめんだ!
ほんとだよだいたいアダムとイブが基点だから

アラン・トワイライト?
彼がどうかして?
したしすぎるー どういうわけだ
どういうわけって?
おとうさまは あなたに
よけいな手を だすなと いっておられるのよ
そう そして あなたがたは なにをしてるの なにもして いないじゃ ない…!!
なにをいっても 早く手をだした ものが勝ちだ ぼくにだって
……
わたしたちは おまえの親だ! おまえだけが メリーベルの心配を してるんじゃない!
親じゃ ない

あんなことをいわせておけるか!
むすこと競争なさるおつもり?おかしなかたね
あのバカはわたしのいうことなど聞かないつもりだ!
だとしたら
さ動かないで
母さま…きれい
そりゃクリフォード先生も一発でまいるね
先手をうつしかない!
今夜やるの?
今夜はディナーの招待をうけただけ敵情の視察だ
のろいね
いそぎすぎるとたいていのことは失敗するとくに—
われわれが生きていくためにはいっさいが静かであらねばば—
おまえにもそれはわかっているのだろうな!
よい夜を…

あの…お花ここでいいかしらジャン
いいよカスター先生は？
お父さまは書斎で…
また本か！お客がくるってのにまったく！
…ジャン…あ…
新しいドレスなのよ…ひとことなにかいってほしい……ジャン…
こんばんはおまねきをうけて…
カチャ
どうぞ
あ…
シーラ・ポーツネル夫人なんておきれい…！

カスター先生
したくは…!
ガチャ
ほ…!
はでなタイを
しめたな
クリフォード!
夫人にいいとこ
みせるためか?
なに?
そこから
ドアは
見えないの
に… どう
して…
鏡だよ
ちょっと
配置をかえた
鏡?
あ…!
ジェイン
お父さま…
男爵夫妻が
お見えですわ
カチャ

ひどいな!
これじゃ
ぬすみ見じゃ
ありませんか
もちろんさ
ムッヒッヒ
アハン!
あ
お通し
して

?

お
ようこそ
おふたかた
すこし
遅れ
まして…

ギクッ

クリフォード なにをそこで つっ立っている
シーラ夫人! これは お美しい…
…は

鏡に 映らなかった…

ドアだけが 閉じて 鏡に映らなかった…!
まさか!
結局 フランスを 共和制に みちびく ために

パリ市民の 犠牲は 必要だった
政治の話は ご婦人がたの お気に めさぬよう だな
あら
そうね ロマンチックじゃ ありませんわね

それより お式は いつですの?
こんなかわいい フィアンセが いらっしゃるなんて ぞんじません でしたわ
クリフォード 先生?
まさか…

おい ジャン
は!?

いや…じつに楽しい夜でしたではまた…

手 すこしひえている…外気のせいか

どうしたんだね美人がいるとすこぶるさえるきみの弁舌がさっぱりとは！
は…
ん？夫人にみとれて声もでなかったか…ハッハ！
お茶をくれジェイン
は…はいお父さま

ジェインお嬢さん…
…あのなんでもないんですよジャンはただ美しい花にみとれてるだけですジャンはいつも婚約者のあなたを…
いつもわたしを
せわになった恩師の娘としてみてますわ

シーラ夫人あのかたほんとにお美しい……
男の人ならだれだって…
…ごめんなさい…わたしどうかしてます…お茶をいれますわ…どうぞでていらして

ジャン・クリフォード
おまえはジェインさんの気持ちを考えたことがあるのか!
ジェインさんは心からおまえを愛してるのに
人間がー
鏡に映らないとしたら それはなんだろう?
知るか そりゃバンパネラだ! たしかにおまえはカスター老先生のお気にいりだ そして山ほどの女にもてて…
だけど…!
では人間ではないことになる
それこそ
バカバカしい
考えるのはやめだ
クリフォード! ジェインさんは
ああ ジェインは ほんとにいい娘だ 美人じゃないが よき妻になるだろう
だが恋人むきじゃない ロマンスは自分でさがす
シーラ夫人は魅力的だろう?

錯覚だ…
バカバカしい
どうかしてる
もう二十年もすれば
二十世紀がくるという
この科学時代に…
ふ まったく
へんなことを
考えた
あの
ジェインと
いう娘…
ふふ
おまえを
やいていた
わたしとても
気にいり
ましたわ

エドガー どこだい
どこだい
メリーベルを お空に ほうりあげるよ
でて おいで
メリーベルを お空に ほうりあげるよ
キャーアハハハ
エドガー どこだい
どこだい ?
あ ここに いたのか ねむってたの?
……!
すこし うとうと してたらしい …夢を 見てた
夢? いい夢?
いいとりであとに いったこと あるかい?
今度の日曜 いかないか
日曜はきみ ミサだろ
くだらない すっぽかすさ

ママ！アランは？馬車をおりたときはいたのに…！
ま！ていさいの悪い逃げたんだわ
あ　おはようございます…おやアランは？
先生
ハア　ホホ　なにやらねカゼぎみなので今日は家に
ポーツネル男爵一家は…
いた！
バカだな　わたしときたら…とにかく男爵夫妻は熱心なカトリックってわけだ
波のきわまでおりてみないか？

どこまで
おりるんだ?
岩がくずれたら
おしまいだぜ
スリルが
あるだろ
いやなことが
あっても
ふっとぶさ
そんなに家で
いやなこと
ばかりあるの?
……
…きみと
知りあって
よかった
きみは…
これまでに
ぼくのごきげんを
とるため
むらがってきた
やつらとは
ちがう…な
きみになら
なんでも…
話せそうだ

そしておまえは
愛するものを
ふたたびそのつめに
かけようとするのか
その
呪わしい一族に
くわえようと
いうのか
きみんちの妹
どうしてる?
メリーベル?
家にいるよ
…つれてくれば
よかったのに
の
…フフ…
な
なんだい
その笑い
かた!
王子さま
きみが遊びに
くればいい
きみん
ちへ…?
あの子は
あまり外へは
でないもの
病気?
…うん
そうだね
…からだが

ア
アラン
アラン おどろかないで なんでもないんだ

…もろもろ
の…
逃げないで
なにもしや
しないよ
天は神の栄光を
あらわし…
大空は御手の
…わざを…
しめす……この日
……
……この日 ことばを
かの日につたえ
この夜 知識を
……かの夜に 送る
語らず いわず
その声 聞こえざるに

そのひびきは
全土にあまねく
…そのことばは
地の果てまで
およぶ
カッ
カッ
カッ
願わくは
われをかくれたる
トガより
ときはなち
たまえ
カッ
願わくは…
願わくは…
願わくは…
願わくは…
ア…っ

ばれた!
逃がしたのか
なぜとどめをささなかった?
それより出発したほうがいい…すぐに…この市を
エドガー!
おちついてそこにすわれ
相手はだれだ…友だちかどうなった?
ねらったのは…彼の耳のすぐ下だ……つきとばされた
一番やわらかい場所だな
……それから聖書のことばを
聖書!? 逃げてきたのかなさけないやつめ!
あれにはだめなんだこわくて…!あなただってそうだろ!?
ここはいい土地だ…最近急速に商業化してきた古い港町だ
外来者が多く市は若い
土地に根づいたいまわしい伝説や事件の影はない
人びとは進歩を喜びいっぱしの近代人ぶりだてきとうに信仰している……いい土地だ

みことばや十字架や塔を恐れるな
そんなものは単なる象徴にすぎん
エドガー帰ってたの!?
あ…メリーベルすぐいくよ
恐ろしいのは…信仰だ
現にわたしはけさ教会へいった
われわれをふくめいっさいの異端を認めない心
これは邪悪なものだ!これはうそで実在せぬものだと
狂信している精神は恐ろしい
だがこの市の人間はバンパネラなど信じてはいない
アランは…でもうたがってるかもしれない……
疑惑など打ちこわせ!
キ!
信じさせるな!!

サラサラ
サラ
おはよう アラン!
……
……?
キラッ

くれるの!?
じゃ
ゆうべのこと
おこって
ないんだね
よかった!
きみが
つきとばしたから
ぼくはてっきり…
十字架…
ありがとう
たいせつに
するよ
………
きみは昨日……
へんだったよ…!
……
…ぼくはただ…
ただきみに
キスしようと
思っただけさ
首すじに?
…だ
から
きみがあんまり
しょぼくれてたんで
からかったのさ
メリーベルを
つれて
こなかったって
すねたじゃ
ないか

なにも
すねたり……
でも家に帰ったらメリーベルがおこってさ いっしょにいきたかったのにって…
……夢を見たのか ゆうべのことは
だから今度遊びにおいでよ ……メリーベルも待ってるから……
光って見えた青い目は……
血のように赤いくちびるは
……もやが見せたまぼろしだったか
このえものは逃がさない
メリーベルのためにも
ぼく自身のためにも
ただ…とうぶんは
おとなしくしていると しても…
アラン・トワイライト
お母さんが危篤です …馬車が外にきてる すぐお帰りなさい!

アランさま!
母さんは?
今先生がたが……
どうなの!?
お部屋へおはいりにならないで…
アランさま!
……

バタン
サロンのほうにおじさまたちがお帰りになっていらっしゃいます
じゃサロンにはいかない
…アラン…
…アラン
…アランや
…お父さんそっくりになって……
おまえそばにいておくれ
母さんがいつ神さまにめされてもいいように
悲しくないよおまえがいるから
おまえがいるから
アラン
……アラン……
アランや……

だれか
そばにいて
ひとりでは
たえられ
ない……！
カチャ
きみはずっと
そこにいたのかね
…ねむらずに？
中にはいっても
いい？
お聞き
お母さんはね
心臓がとても
弱ってる
あと何日
もちます…？
わからない
とうぶんは
安全だろうが
今度大きな
発作が
おきれば
……

あの子のほうがさきにまいってしまいそうですよ
なになにがあっても子どもは生きていけるもんだ
パタン
とにかく今は助かった
……ごめんなさいおこした？
感謝します……神さま
ス……

なにをしてるの兄さん
なにも…おいで雨が海にふってる
ちょっといいながめだよ
それだけのことなのにふしぎね……
生命よ……その波のあいだの生命よ……
水より生まれときをへて死なば水に帰り
さらに生まれさらに永遠に
わが一族死なば風にとぶちりと消え
消え……
そのゆく果てもなし……

おじさん話って?
バタン
まあここへおいでアラン
昨夜はまったくたいへんだったないちおう安心とはいえ……

レイチェルのさきはながくないだろうかわいそうだが……
まえまえから…

いってたことなんだもちろんレイチェルも賛成だし……

おまえのお母さんが生きてるうちにマーゴットと結婚式をあげたらどうだね

マーゴットとは結婚しない!

ま アランレイチェルを安心させてあげたくないの?
お母さんはおまえのことだけ心配してるのよ!

いやだ!
待て!うちのマーゴットのどこが不服だ!
おまえが孤児になるのを心配していってやってるのがわからんかっ!
あなた

アラン この親不孝者!
あなただめよ ここはなだめて…

おとなしくしたら? 父さんがこうと決めたのよ
マーゴット!

きみもなんとかいえよ! クリフォード先生が好きだったんだろう
キャーハハ! バカね! あの先生には婚約者がいるじゃない

好きだったわ そうよ 先生はあたしに三度もキスしてくれたのよ あんたみたいなチビなんとも思っちゃいないわ

でも やさしくしてあげてもいいわ あんたはかわいそうなお金持ちのみなしごになるんだものの

ごめんだよ！
その顔はなによ
あたしみたいな
美人にキスされて
喜んだらどう…？
あん！
なによ
なぐさめて
あげたんじゃ
ない！

コンコンコン
アラン!

エドガーは?
え?
エドガーだよ いる?
いいえ まだ学校から 帰ってないわ
布をもって くる…ふかな くちゃ
いいよ ここにいて
ごめん きみが ぬれる
どうしたの なにかあったの……
ぼくが プロポーズしたら おこる?

二年か四年か
あとでいいんだ
約束だけして
今……
きみがもっと
おとなになって
それは……
ムリよ……
ほん気だよ！
ほんとに！
約束だけでも
いいんだ……！
メリー
ベル…！
なぜ!?
ごめん！　どうか
してたんだ…いきなり
…ごめんよ
困らせて…
でもきみが
好きなのは
ほんとうだよ
……好きだ

アラン！
わたしたちと
いっしょに
遠くへいく？
—ときをこえて
—遠くへいく？
…ときをこえて
……？
お帰りなさいませ
アラン……！

わたしたちと
いっしょに
ときをこえていく
アラン
いやだ
いやだ
いやだったら
だれもぼくに
話しかけるな
そこにいるの
だれ？
そこにいるの
だれ？
みんなやるよ
みんなやるよ
もっていけ
マーゴット
ぼくが知らないと
思ってるんだ
エドガーきみは
バンパネラだ
ただの
カゼですよ
熱は高く
ありません
いこう
いこう
メリーベル
どこへいくって？

きてたの…
メリーベルがひどく心配してたよ ぼくをせっついて見舞いにいけって
すこしばかりのどがいたいだけ しゃべるとね
そりゃ悪いね…
でも もう熱はさがって……
明日にはおきられる……

ウ
診察ですか?
クリフォード先生
あ……あ…
そ…そう
じゃ ぼくは
帰るから
学校で
あおう
失礼
クリフォード先生
総毛立ってる
……なんだこれは
……
……この異様な
冷気は……!
伝説を
信じます?
え?
なんだね
伝説だよ
……たとえばね
バンパネラは
実在したと
思います?

……知らんね
わたしは見た
ことがないから
幽霊はひるまでも
見えるね……細い顔で
長い黒髪の……
あとになって
知ったが
それはわたしの
母だったよ
へんな話だ
でも幽霊は
信じるね
子どものころ
よく見た
幽霊!?
恐ろしかった?
ひるまでも
恐ろし
かった
どうって
いえないが
ふつう
見えるはずの
ないものを
見てしまった
異質さ……
これは
どうした?
指のあと
らしいが
あ…のどが
いたいって
いったら
エドガーが
ふざけて手を
おしつけたんだ
……でも軽くだよ
軽く?
赤く
なってる
で 先生
バンパネラ
いると思い
ます?

……ハハハ
あら！
おひさしぶり
ジェイン！
娘のメリーベルよ
せがむもので
つれてきたの
あなたも
帽子を？
……ええ
ジェイン　ね
おたがいの
帽子を見立てて
みません？
買いもの！
これこそ
女の特権よ
いらして
いやだわ
こんな美しいかたと
わたし
まるで
引き立て役

髪をあげて…
すこし昔風にぴっちりゆいあげて …緑より…そうね青がにあうわ
ま…わたしなんてみっともなくって…なにを着たって
あら！みっともない若い娘なんていやしません
髪よ まず髪をゆって
最新流行のバッスルスタイル
もちろん ウエストは細く胸をだして…！娘らしく…！
色は…ええ もちろん青よ！青のタフタ
帽子は青よ …ああ！ぴったりのをもっていますわ 白い羽かざりの…！
ほら とてもすてきになれるわ うかんでくるでしょ 青い服を着たあなた……！
……
ね あたしにまかせて じゃ まず…
母さま……
ま…困ったわ
どうか？
なんでもないの この子すこしからだが弱くて… …ふらつくの？

わたくしの家すぐですわ
ちょっとお休みになれば？
まあごめいわくを……あら
じゃあ
そのすきにわたし帽子をとってきますわ
すぐに……
親しげなかた！もっと気どったご婦人と思ってたのに……
あ…メリーベル大丈夫…？
その角よ歩けます？
ええミスジェイン
ポーツネル夫人！まそんな……
いいえせっかくあの羽根帽子のにあうかたを見つけたのに見のがせないわ
ええすぐもどってきますから！
ゴロゴロゴロゴロ……
ひと雨くるな…

シーラ夫人！
こんにちは……往診のお帰り？よくおあいしますこと
雲が走ってますよおいそぎにならないと

浜をぬけようと
馬車をおりて
あそこに
小屋が
ピカ

■キリスト教の信仰のある地方では　神の怒りによって　罪人は落雷をうけて死ぬといわれている

カーテンをひいてくれエドガーあの光はどうも好かん！

目につきささる！

ぼくは好きだなちょいとぞっとするけど……

母さんとメリーベル帽子屋へでかけたって？

帽子屋のうらにはカスター老先生の家があってジェインがいるという寸法だ

つまり下見

ものうい……

雷雨……

もう冬がくる…

雷がこわいんですかシーラ夫人

ええ…まるで……わたしにむかって走ってきそうで…！

罪人のようなことをおっしゃる

ああいや気をそらせてほかの話をしましょうよ…

帽子屋でジェインとあいましたわ

ジェインと?
ええ
あのかた
青い色が
とても……

大丈夫
大丈夫ですよ
――シーラ
青ざめたほお
長いまつげ
くちびる――

わたしはこの人を
今 この手に
だいている
あれほど
あこがれた
夫人を…たとえ
一瞬でも…なぜ…

魔性などと
うたがった
のか
クリ……

フォード……

脈がない……!!
…あ…あ…
悪かったわ……あなたのお母さまぬれたかもしれないわね……

伝説を
信じます?

失礼
クリフォード
先生

…知るか
それなら
バンパネラだ
ジェインさんは
心からおまえを
愛してるのに

人間では
ない!!
ジェインになんて
おっしゃるの…
動いてない
すべての血脈が
死んでいる
これは人間ではない

カターン

…これは夢だ!
あなたは
現実のものでは
ない
なぜここに
いるのです
…あなた自身の
ためにも…

打ちくだかねば…
これがわたしのつとめだ
この…
まぼろし…

…逃がしたか…
それとも
打ちくだいたか…

…!
どうした エドガー
ドア …が わからない けど
…まさか アラン…？

……
布を！
…ひどい
…左肩から
胸へかけて
ざっくりだ…
…クリフォ…
クリフォード？
あの医師か
…医師か？
シーラ！
気づかれ
たのか？
ええ
伝説を信じる
人間が　すくなく
とも　ひとりは
いたね
すぐ町をでる
あの医者を
殺せばいい
すぐだ…
コートを着て
駅で馬車を借りて
ちがう町へいく
母さまを
今動かしたら
助からない
せめて一日待って
出血がとまる
まで…
今逃げなければ
おわりだ！

輪がやぶれたのだ
シーラが
こうだ！
十万の市の
住人の波に
であったら
どうなる
カマ　クイ
十字架　さけび
人びと！
いくども
そういう光景を
見てきた！
老ハンナが
死んだときの
ことを
おぼえている
だろう
メリーベルは
！
…母さま
メリーベルは
どこ…！
キャッ

いいわよ
こうしてなさいな
雷がこわいの?
ええ
きらいよ
光が…光が
ガラガラガラガラ
ガラ
…きれいな
まき毛…
…ああ
かなわないわ
シーラ夫人には
あなたも
お母さまににて
美しい婦人に
成長するんでしょうね
…お母さま
のことは…
あらいやだ
またわたしの
ぐち…
なんにも
知らないわ
わたしを
生んですぐ
なくなったっ
て聞いたわ
…ま
メリーベル
……
じゃ…
ただね…
お母さまが
子どものころ
今のわたしと
そっくりだった
んですって
ジェイン
シーラが
好き?
え? ええ
あのかたはずっと
おとなですもの
女らしい…
ときが
たてば
あなたも
おとなに
なるわ
…そう…かしら
ほんとうに?
…明日は
今日より
すばらしく…

ジャン！
はなれろ
………
…ジャ

ジャン…
あ…あなた
いったいなにが
…こんな…
ま…あ…
シーラを
殺した！

キャ……

ジャン！
それは
魔よけの
銃よ！
そうとも

弾がはいってる
はずだな！
…銀製の！
ジャン！
お願い
おちついて
わたしを
見て！
あなた
なにをいってる
のか　自分で
わかってないのよ

岬の家に
住んでいるのは
悪魔の一家だ!!
わたしは
くるっちゃいない
ジャン！
なにをいい
だすの！
…ちがうと
いうのなら
これで十字を
きってみろ！
アク

ガラガラガラガラガラガラガラガラガラ
メリーベル!
メリーベル なにをしてるの 十字架を ひろって!
ひろって!
エドガー! エドガー!

ジェイン！
なんだ？
おい
いったい
なんの音だ！
ジェインも
見ました！

ジェイン？
どうした？
お嬢さん！
ショックで気をうしなってるだけです！
ジェイン！
ア…ア…ア
ギャーッ
クワを持てクイを持て十字架をかかげて！
クリフォード
うちくだけ悪魔を！
悪魔を！

そのぬれた服をなんとかしろ！お嬢さんをねかしつける
それからどういうことか話を聞かせてもらうぞ！
願ってもない！ジェインも見たんだから
先生だって信じないわけにはいくまい
信じる？なにを！
悪魔を！
…くるったんじゃあるまいな
まさか！
あれも神のつくりたもうたものか？…なんのために！
これが神の雷なら…あの岬の家こそくだけ散れ！
メリーベルの悲鳴が外まで聞こえた
…ぼくはまにあわなかった…

これはあなたが
メリーベルを
撃った銃だ
…悪霊…!
消えろ…!
おまえたちは
実在しない!
実在している
あなたがたよりは
ずっと長い時間を
……
なにか
いいのこす
ことは?
カッ
消えろ!
おまえたちはなんのために
そこにいる
なぜ生きて
そこにいるのだ
この悪魔!

…なぜ生きているのかって……
それがわかれば！
ガチャ！
パリン
創るものもなく
生みだすものもなく
うつる
つぎの世代に
たくす
遺産も
なく
長いときを
なぜ
こうして
生きている
のか
…すくなくとも
ぼくは

ああ
すくなくとも
ぼくは…
シーラっ…
あ
ぅぅぅ
わが妻
わが愛
わが運命を
わけし
者ども

事故だ
こりゃひっでえっ
さらばさらば
むちゃだこの坂を角も見ねえですっとばしてきて！

ひとりは馬車の下になったぞ見たんだ！
うそつけ馬車の下にはだれもいねえっ
それをどけろ
……さらばわが遠き日び……

ク…

フ…フ

幕だ
すべてはおわった!
ぼくは自由
ぼくはこの世で
ただひとり
もうメリーベルのために
あの子をまもるために
生きる必要もない
生きる必要も
ない……
アランさま
お起きに
なっても
よろしいのですか
ああ
熱は
ないんだよ
母さんにそう
いっておかないと
心配するから
アランが…
マーゴットとの
結婚を
いやがってるんだ
おじさんだ

なあレイチェル
おまえから話すのが
一番じゃと思うが
あれはまだ子どもで
なにも
わかっとらん
商会のことも
みんなだ！
そうきつく
だかないで…
また胸が
苦しくなるわ
おまえ
アランに話して
くれるかい
いいわよ
話しておくわよ
あなた
たのむよ
おまえ
バン

アラン
待ちなさい
話がある
…アラン
今
レイチェルとも
話してたん
だが

マーゴットとの
マーゴットとの結婚についてだレイチェルはひどくざんねんがっていたよ
レイチェルはさ…

人殺し！
人殺しーっ
アランさまっ

アランさま！
お待ちなさい
アラン！
あなたーっ
とうさま！
とうさまー！
アランさま！
アランさま
アランさま
そこにいらっしゃるんですよ
いいですね！
すぐに
すぐに
先生を
……！
……あ……
メリーベル
メリーベル
……だれか……
たすけて……
メリーベル……
メリーベルは
もう
いないよ

メリーベルは
どこ?
知ってる?
きみは人が
生まれるまえに
どこからくるか
知らない…
ぼくも知らない
だから
メリーベルが
どこへいったか
わからない
…生まれる
まえに…!?

ぼくは
いくけど…
どこ…へ
遠くへ
きみはどうする?
…くるかい?
おいでよ
……
きみも
おいでよ
ひとりでは
さびしすぎる
……

カチャ カチ!
アランさま! おじさまは大丈夫ですよ!
おじさまは… アランさま!?
アランさま!
風につれていかれた…!?

通りすぎる
ときどきの間に
ささやき　笑い
まなざしを送りかわし
夢を織る
人びとの
あいだを
走り走り
このときの
流れの果てに
なにかあるの
なら……

「ポーの一族」1972年10月

ポーの村(むら)

撃ちそこなったシカのことを考えて歩いていると
霧が出てきたこんな季節にはめずらしい
カウル！
おーいカウル！
パリッセ！ウィリアム
カウル！
狩り仲間とはぐれたらしい初めての森だとうろつくのも危険だし——
まあいいそのうちはれるさ
あれは……乳母に聞いた昔話だったが
霧がはれるとべつの世界が…神の守りをうけた村があり
その村は一夜で百年が過ぎる……と
…霧はふしぎ…伝説がひそむ

さて　どちらが
北だろう
そう　仲間たちと
はなれてるはずは
ないんだが
ガサ…！
撃ちそこ
なった
シカだ！
ザッ

メリベリ

わたしは
グレンスミス・
ロングバート男爵だ
わたしは
まちがえて…
わたしは………
まさか
こんなとこに
子どもが……
エドガー
さま!?
……!
…弾丸を!

その時
村人が
現れなかったら
わたしは
ほんとうに
この少年に
殺されていた
お館へ…
早く……
そのよその
おかたも…
その子は…
歩け！
いてついた
星のように
青い……
…なんと
いう目を
している
のだろう
…！

…バラ…!?
……バラ…!
よそのおかた
どうぞ
こちらに
あ!
待ってください
…あの少女は
助かりそうで
すか?
いい医者は
館にいるん
ですか?
ご心配
なく…
今
上の部屋で
手あてをして
いますから…
心配なく?
心配だから
ついて来たし
帰れないで
いるんだ!
キズを負わせ
たのは
わたしだし…
あなたが
メリーベルさまの心配をなさる
必要は　ございませ
ん
あなたは
よその　おかた
ですから

…そのうち
あなたさまの
手を
おかり
するやも
しれません
ともあれ
お待ちに
なってて
ください
わたしは
サン・ダウン
城の……
バタン
…あの少年だ…
エドガー…
とかいった
ポキ！

……
メリーベルのようすは…?
まだわからない

…わたしはちゃんと責任をとるよ
使用人を呼んでほしいことづてをしたいんだ

わたしは友人の城へ招待されている身なんだサン・ダウン城のラトランド伯
狩りの最中にいなくなったので心配していると思うから
——このこの村にいるということを一言…

そんな必要はないメリーベルが死んだらあなたを殺す

メリーベルが無事ならあなたも無事に帰してあげる

バカな!

バカな…？
いったい……あなたになにがわかる！
あなたはメリーベルを撃ち殺そうとしたんだ！
天にも地にもたった一人のぼくの肉親ぼくの妹ぼくの愛を！
メリーベルのためにだけぼくは生きてるんだメリーベルのためにだけ！
あの子が小さな時からずっとずっと…
一番そばであの子を守って来たんだ！
責任をとると言ったね
とうぜんだろう！

どこへ行く?
村からは
出られないよ
村中みんな
この事件を
知ってるからね
あなたを出しゃ
しないよ
おばあ
さん
ハイよな
よそのおかた
…なにを
している
のかね
スープに
入れますよな

………
サン・ダウン城は
どの方向かね
ラトランド伯の

…聞いたことが
ありませんよな
この近くに
あるはず
なんだ!
そんなに長いあいだ
霧の中にいたはずは
ないいんだから!

いったい
この村は
なんだ?
一本の麦も
豆もない!
一頭のウシも
いない
人の声も
しない!
だれが
統治して
なんで生計を
たててるん
だ?
このバラで
香料かジャムでも
つくっているの
か?

…ポーの村と
いいますよな

バラをつくって
生きてますよな
バラ?
このみごとな
赤いバラ
だけでか!

あなたは
よそのおかたですよな
この村には
この村の風習が
ございます
もう
何百年も
何百年も
まえから
ポーの村では
バラをつくって
生きて
来ましたよな

日が暮れます
お館へお帰りなされ
お一人で
村から
出られやしませぬ
ポーの
……村……
…どうぞ
お食事を
ええ
メリーベルさまは
もちなおされ
ました
もちなお
した!
ああ
あのキズでは
てっきり
助からないと
思ってたのに
どんなようす
…意識は?
今
奥さまと
お館さまが
つきっきりで
でも 明日には
なにもかも
よくなり
そうです
夕食は
スープだけ
パンも
ワインもなし
でも
とにかく
ほっとした
……

フ…っ
バタン
……メリーベル……!?

…おはよう
あなたは…
メリー
ベル？
はい
よそから
いらしたかた

昨日
わたしが
森の中で
…撃った
メリーベル？
もう…？
はい
まだすっかり
よくは
ありませんけど

どうか？
失礼
あ…
ただ…

信じられなくて
ふとふれてみたが…
少女の首すじには
もう　なおりかけた
弾丸のキズがあった

たしかにもう
なおりかけているのだ
……特異体質としか
言いようがない
あの召し使いの
言ってたように
——明日には
なにもかも
よくなった

ともあれ
わたしは生きて帰れるわけですね
はは…息子が言ったことをまにうけられたんですか？ これはすなおなかただ

これはジャスミン？
バラですわ
…われわれは

すこし 古風で…かわった暮らしをしています
たしかに 古風な…
しかしその朝会ったエドガーの養父母だというこのポーツネル男爵夫妻は

…おちついた感じのいい声をもった人たちで…
ギク

少年の目の色はかわらなかったが
ずっと態度はやわらいでいた

メリーベル！

ああ そらそら 血が たりないのよ ……ベッドで やすんで いなけりゃ

わたしが

ご心配なく…… メリーベルの貧血は しょっ中ですの

まあ ほんとうに 大丈夫 ですわ

それより お帰りに なるんで しょう

嵐だよ

…こりゃひどい…
帰らなくてよかった
バラがぜんぶ散ってしまうね

明日は晴れます
また咲きます
夏の嵐ですから一晩でおさまるでしょう
そう願いたいね
…いい村だが

先祖伝来の食事にはなれないな
バラのスープだけとはね

帰ったらまずクリームのたっぷりはいったティー
あつ切りのチーズに
ステーキ
メキャベツ
白パン
ワイン
ジャムのつぼ

オオオオォ
オオ
…だれだ…!
エドガー! なにをしていた?

メリーベルは
弱っています
あなたは
ほんの少し
われわれに
血を
くれなければ

血を
…？
…神
よ…！
わたしの血を
吸ったのか？

新しい血は
たくさんの生気を
もっているから
わたしの
血を
吸った！

…バンパネラ
バラ
バラ
バラの咲く村——

極上の美
永遠の命
底知れぬ恐怖
知りえぬナゾ
伝説の中に
青い霧と
たそがれと闇の中に
しとどおちる血と
冷たい指と
ほほえみの中に
――それでは――
…わたしもバンパ…ネラになってしまう――
フ…
妹とシカとまちがえて撃つような
そんな資格はあなたにはない
どうぞ明日はお帰りください
人間として神のさだめられた数十年の命をまっとうしてください
ドジな人間をわれわれ不死の一族に？
…首に歯形があるだろう！
そんなヘタな吸いかたはしません
われわれは……

ほら
……こうやるだけでも
われわれに必要な
あなたの生気を
吸いとることが
できる
この指先
から……
そうして……
バラを枯らす
!
だが…光には
弱いはずだ
鏡にも映らない
ニンニクと
十字架に
弱く
棺桶を
住みかとし
……ですか?
そう聞きもし
本でも…
…ほんとに
バンパネラ
なのか?
フ……
そういう名で
呼びたければ
どうぞ
われわれは
……
ポーの一族
では…
おやすみ
…どうぞ
ポーの一族
……

森は昨夜の嵐で湿気をおびて
木のまから しずくが光り

わたしを送ってくれた村人の姿はすぐ消え
二時間後にはサン・ダウン城へ帰りついた

グレン! どこへ行ってたんだ!
二晩も!

すまない 道にまよって近くの村にとまってたんだ
村だって?
それに嵐で帰れなくて…… お茶をくれ

昨夜はたしかに嵐だったけど
ポーの村?
そんなバラの咲く村なんてこの近くにはないぜ
夢でも見てたんじゃないのか?

たしかに この城の周辺を
さがしたが そんな村は なかった

――が 夢ではない
首すじに 血を吸った うすい アザのあとが 残っていたから

あの少年は あのあと 少女に わたしの血を わけあたえたのだろうか

「ポーの村」1972年5月

だれにする?

それ これから決める

エド!

ね おもしろい話を聞いたんだよ きみの名…ポーツネルだったね

エドガー・ポーツネル

ああ

ルーイース ルイス! 窓ぎわの席とっといてくれよ

わかった

そうだよ それでもし メリーベルって名の妹がいでもしたら

グレンスミスの日記(にっき)

リンゴーン
リンゴーン
ゴーン
ゴーン
ドーン
カーン
カーン
カーン
グレンスミス死去
一八九九年
クリスマスの朝
バタン

まあ
エリザベス
またなにを
始めたの

あら!
いらっしゃい
おばさま

少し
かたづけ
ものを…

このお父さまの
部屋 上の
兄さんが
使いたいっ
て言ってて
るから

まあそう
そうね
いい部屋
ですもの

ほおっておくのは
もったいないわ

どう?
少しは
元気が
ついたようね
心配したのよ

末っ子の
泣きムシ
さん…?

もう
平気よ
おばさま

死んだかたの日記なんてお嬢さま
どんな秘密が書いてあるか知れやしないし燃やしたほうが
娘の特権よいいじゃないのそれともそのロックあけられないの?
針金一本であきますよさびてませんし
ありがとうないしょで読むわ!
お父さまの日記…
しかも一八六五年ですって!
お父さまが二十のころ結婚もまだ
まあきっとすてきな青年だったにちがいない
考えたとおり恋歌で始まっていました
お父さまの青春の日び
……
はなやぐ乙女たちへのあこがれと…
失恋と……
そして
七月四日
ラトランド伯に招かれてサン・ダウン城へ行く
…バラの咲く村……?

七月十三日
やはり書いておこう
七日 仲間たちと
狩りに出かけ
霧にまよって一人に
なり
しげみからとび出した
少女を
あやまって撃った
撃った…
バラの咲きみだれる
村に わたしは
みちびかれたが
…そこには…
…永遠の人びとが
住んでいた……
老婆は
バラをつみ
男爵夫妻は
バラを飲み
少女は
ほほえみ
──嵐の夜
わたしの首から
少年は
血を吸い
ポーの村…!
バンパネラの
住む
バラの村…!
不死の一族が
永遠の時を
生きつづけて
いる村…!
三日目に
帰って来た
これはなに?
ロマンチストな
お父さまの
創作?
──夢?
いったい
なに?
だれに
話しても
信じては
くれまい
一八六五年
七月十三日
グレンスミス
………
だがだれも
そんな村は
知らないという
さがしたが
…みつからない
こうして
書きつけて
おく
だけにする

永遠の村……
永遠の村……
これはいったい
なんでしょう
ふしぎな物語
なぜこんな
いくどもいくども
あけられたページ
三十数年まえ
の黄ばんだ
紙の日気
お父さまは
いくどもいくども
読みかえし
三十年間
なにを思って……
なにを思って……

その人はわたしより
八つも年上の
〝世界の海の果て〟から
来たやさしい人で
屋外音楽場で
わたしたちは
知り合ったのでした
1900 9月末
それでみんなで
言ってやった
スタンドに足がはえて
美人でも追って
行っちまったんだろって
好きじゃない
わたしはそんな音楽で
生きられない
つかれては
いません
ただ一人なので
さびしいだけです
音…は
いいです
音は
いいものです
結婚してください

音楽家…!!
反対ですよ
わたしは…
エリザベス!!
そんな地位も
財産もない…
プロシア人!
…ムリを通すなら
いっさいあなたと
縁を切ります
あなたは
だまされて
いるんです
かわいそうに!
…兄たちの　おばの　親せきの
無言の冷たい承認のうちに
冬の北海を渡り
彼の祖国―ドイツへ
重いトランクの底に
わたしの父
―グレンスミスの
日記をおいて
さようなら
イギリス
わたしの思い出
わたしの童話
わたしは
花嫁となって
海を渡る
トニー
…
きっと
きみを
幸せに
するよ
一生
はなさない
……

ヨーロッパの花園
ベルリンの
それは小さな
アパートで
ジュリエッタが生まれ
ユーリエが生まれ
そして末娘のアンナが
生まれ
―幸せで
幸せで……
あなた
あなた
…あなた
戦争が
始まるわ!
大丈夫
すぐに
おわるよ
ドイツ帝国が勝って
……
すぐに
……?

ドイツ皇帝が言った
〝輝かしい活気に満ちた戦争〟は
一九一四年の七月に始まり
だれもが
思いました
〝クリスマスには
おわるだろう〟
これまでにも
ボーアで
モロッコで
バルカンで世界各地で
絶えず国ぐには権力のために
戦っていたのですから――
……でも
―長い
戦争
でした
そして
人びとは
より貧しく
空腹になり
子どもは泣き
老人はこごえ
ストライキが
おこり
でも戦争はつづき
強制徴用だよ
人手が
たりなくて
キールへ
行く……
それは直感でした
この人は帰って来ない
エリザベス
エリザベス
子どもたち
を…!
…帰って来る
からね!
この人は
帰って来ない
きっと
帰って来る
からね!
うそつきのトニー
うそつきのトニー
たくさんの約束をして
幸せの
約束を残して
うそつきの
トニー

そして
ドイツは
負けて—
罪を
せおい…
1918. 11月
娘たちは
洗濯場や
髪ゆい店で
働ける年に
なってましたが
生活は苦しく
みんなが
貧しく
なにもかもが
つらく
悪いほうに
悪いほうに
転じて見え…
イギリス
へ…
帰ろうか
夫がもう
いない 今
身内に
頭をさげて
旅費を送って
もらって
もう一度
北海を
渡ろうか
……花嫁となって
北海を渡り……

ママ だめよ
ママ だめよ ママ
アンナ
アンナ どうしたの ママなにも しませんよ アンナ
とびこむのかと思ったの こわがらせないで
こわがらせないで
ああ 花嫁となって海を渡り
わたしの愛した人の祖国へ…
気弱さは病気のせいでしょう
少しからだを悪くしていました
気ぶんが悪いならちゃんとねてるのよ ママ 仕事しないで
ミルク 台所の机の上においておきますからね
次女のユーリエはお昼のわずかな休みのあいだに髪ゆいの店からかけて帰って来て
家のことをやってくれるのでした
この子が一番トニーに似ていました
わたしが時どき望むとユーリエは
細い声であの古いグレンスミスの日記を読んでくれました
…そしてわたしはなんとなく心がなごむのでした

目をどうかしてユーリエ
え いえ かすむだけ …つかれ目よ
ねえ ママは貴族のお姫さまだったのね
まあ フフ 昔ね
わたし おじいさまがこの日記に書いたこと ほんとうだと思うわ
もうずっと一生そんなバラの咲く村で暮らせたらどんなにいいでしょうね
家中の悲しみ苦しみを ぜんぶ せおったかのように…
ユーリエは まだ十七の冬に とつぜん……
…いってしまいました
1921.1
ゴーン
あの子はなにもいつも言わなかったのよ
つかれたとも苦しいとも一言も
ずっと一生バラの咲く村で暮らせたら…
一言も……

そんな中での
わずかな幸せは
祝福されて
愛にみちた
長女ジュリエッタの
結婚でした
ただ――若い夫婦は
1921.6
ママ
愛してるわ
早く
汽車にのって
おいてかれますよ
ライン河畔の
遠くの町へ
うつってしまったのです
ママ!
ママ
愛してる
わ!
…ママ
わたしが
いるわよ
わたし一生
ママのそばに
いるわ
どこにも
行かない
ママを
一人に
しない
パパや
姉さんたち
のように
行ってしま
わない
いいえ
おまえも
いつか
行くのよ
アンナ
いつか
花嫁と
なって
…ママが
パパに
ついて来た
ように

翌年十七の秋に
アンナは結婚しました
ピエール・ヘッセン
というゆかいな
青年と
そして
ベルリンから
古いハンザ都市
ブレーメンへ
やって
来ました

ママ聞いてよ
あの人のくせ!
毎朝あ〜よ
学校の
教師ですって
あれで!
トニーも
チェロをひいたわ
いい声を
してるじゃないの
アンナ
アンナ
朝のキス
を!
キャ
つまみぐい
したわね
ピエール
ひげに
ジャム!
フフッ

バタン

いつだったろう
……
こうして
窓をあけて
…風を入れ
たのは…
少しずつ
ドイツが
貧しさから
ぬけ出た
ように
娘たちの
結婚に
幸せが
少しずつ
もどって来た
よう……
海を渡って
二十一年…
孫が生まれたら
おばあちゃんと
呼ばれるの
でしょう

おばあちゃん！
翌年アンナとピエールのあいだに長男ピエール誕生
あらパパとおなじ名ね
翌年長女エレーナ誕生
おばあちゃん！
ついで次女ベルタ誕生
おばあちゃん
三女レラ誕生
おばーあちゃん！
…四年おいて四女マルグリッド誕生
どうしてこう女ばっかり生まれるんだ！
女系家族なのよ
食いぶちをぜんぶわたしにかせげと言うのか！
リァ
リァ
リァ
リァ
ベルタ
ベルタ
1933.1.30
…食いぶちが一人へったわ
ろくでなし～っなにが教師よっ借金だらけよかいしょうなし！
わしにモンクがあるなら出て行け！
ささおまえたちうちへおいで

いつも人びとは
不幸よりも幸せを
貧しさよりも富を
服従よりも
支配を欲し
——そして
ドイツはポーランドへ攻め入りました
末のマルグリッドが七つになった日に
あなたは
戦争に
行くの?
ピエール
さん
わたしは
行きません
わたしは
教師ですから
おばあちゃん
学校でなにを
教えてるの
数学です
計算や
原理
法則
図形ね
……わたしが
教師になったら
歴史を
教えたいわ
ぼくが
行かなかったら
だれがママと
妹たちと
おばあ
さまを
守るの
!
ヘッセン家で
男の子は
ぼくだけ
だもの!
幸せは
とどめて
おけない
ものかしら
ほんの
少しだけで
いいから
時が
うつり
人びとは
生きて
死に
歴史の
流れを
歌い
歌い…
ほんの
少しで
いいから

ツェレへ移ったほうがいいかもな 兄がいる
ツェレ!? なぜまた
アンナ 子どもたちのためにはそのほうがいいと思うわ
あああ　戦争
借金　お医者
教育　夕食の
パン!　心配!
この上ひっこし!
キャッ
ガターン
マルグリッド!
あん ごめんなさい おばあちゃま
窓にのろうとしたの
おてんばさん! ひっこしのじゃまばかり
古い ご本ね こわしちゃったわね
いいのよ… これはあなたのひいおじいさまの日記よ
ひいおじいさま……? そんなのがなぜあるの?
……

それはそれは昔のこと…
グレンスミスは不死の一族が住むバラの咲くポーの村を見つけました
それは人間の世界の時の流れからははずれた谷間の村で
争いもなく貧しさもなく絶望もなく
深い一族の愛をもって村人は生きつづけているのでした
ポーの一族にくわわるにはただ首すじに――
おお！
あらそれバンパネラじゃない！あたしピエール兄さんにこわ〜い話を聞いたわよ！
ひいおじいさまはバンパネラ…だったの？
イギリスのロングバードの家系にバンパネラがいたの？
いいえいいえ
グレンスミスは

グレン
スミスは…
ああ
ずっと一生
そんなバラの
咲く村で
暮らせたら
………
どんなに
……
生きて
行くってことは
とても
むずかしいから
ただ
日を追えば
いいのだけれど
時にはとても
つらいから
弱い
人たちは
とくに弱い
人たちは
かなう
ことのない
夢を見るんですよ
村を
さがした
グレン
スミス
いくども　いくども
古い日記を読みかえした
グレンスミス
時の果てで
不死の一族の村の
幸せを追った
グレンスミス……

でもそれ
うそでしょう？
ほんとのはず
ないもの

そうね
わからないわ
でも
エリザベス
おばあちゃまに
話を聞いた時は
信じたのよ
十歳だったわ
それ
読ませて
いい？

あの時から
十七年たってる
わたし
マルグリッド・ヘッセンは
1959.

ブルーメンで
ゆかいなパパ
ピエール・ヘッセン
と二人暮らし
平凡な
小作品を書き
メシのタネに
している
カチャ

ママ　アンナと
エリザベス
おばあちゃまは
とうに
いず……
P!
ピエール
兄さんは
戦争から
帰らず…

すぐ上の姉レラが
結婚して近くに
住んでいて
姉の一人息子
ルイスが時どき
学校の休みに
遊びに来る
あちっ！

そして
この古い
グレンスミスの日記を
いつか発表する
チャンスが
あれば…と
思っている

パパ〜〜お茶をいただきませんか
オーウ
オッ
オ
また声をはりあげて！
あれ？
ははおもしろいな！ここに出て来るバンパネラにそっくりの子がぼくの学校にいるよ
こんな青い目に巻き毛で
そりゃそうさ！
不死の一族の話だと言っとるだろう！同一人物にちがいない！
パパまた悪のり！
それにおなじ名まえなんだよ！
エドガーってさ！
…メリーベルって名の妹がいたよ
でもずいぶんとまえに

「グレンスミスの日記」　1972年6月

すきとおった銀の髪
とばりの影には
永遠の美
永遠の命

ぼくは
十四
毎日
勉強
勉強の相手は
おかたい
家庭教師
家庭教師は
午後に
へたくそな
ソナタが
聞こえてくると
ソワソワしだす
ソナタを
ひいてるのは
アンナ姉さん
あはえへん
チャールズ
ここ読んで
おくように
いいね
SOSITE WATASI WA TOTEMO SAMISII
IE HE KAEROU
IE HE KAEROU
姉さんは
十七
美しい
美しいのは
……春!
そして午後は
自由
ぼくは
草笛を吹き
走り
大声をあげ
でたらめの
歌をうたい
…歌?
歌…!
…の髪の
少女が昔…
いました…

…恋はたしかに
少女のふくらみかけた
胸の奥に
ひそんでいて…
呼びかけて
くる……どんな
風や音楽の
ことばより
やさしく
いつきたの
？
……この家
長いこと
あき家だった
んだよ
おとといよ
あたし
メリーベル
ぼくは
チャールズ
十四だよ
ふうん
うちの
エドガー
兄さんと
同じ年ね

荒れた庭のバラの中
とぎれとぎれの会話
ほおをそめ胸をあつくして…
町はずれの古い屋敷に先日こしてきた一家ごぞんじ?
ポーツネル卿ですって……へんくつらしいわ あいさつはおざなり 女中ひとりおいてないそうですって
貧乏貴族だろう
でもあの子はギリシア風のきれいな服を着てたよ
かげろうが風のように見えたよ
チャールズ勉強はちゃんとしてるね
はい父さま
エッ
コホン!
ところが翌日は午後になっても
姉さんのへたなピアノが聞こえてこない
いらいらいらいら

ガタ!
ははあ
姉さんと
なにかあったな
まあ ともあれ
ぼくも脱出…
パタン!
メリーベル
メリーベル
きみのこと
話してよ
なあに?
聞きたいんだ
きみの…たとえば
小さなころの
ことかさ
小さいころ?
だって……
忘れちゃった
ずいぶんと
昔だもの
あなたは?
……
ぼく?
ぼくは生まれた
ときから…
この町に住んでて
…姉さんがいて
一年中で
いちばん
春が好きで
…今は
世界中で
いちばん…
…きみが
好きで…!
お待ちよ!
キャア
アハハハ…
メリーベル!

知ってるくせに
知ってるくせに
きゃっ
あっ
わ
春には
少女が
どれほど
あまいか
目が
笑って
キスを
誘うか
メリーベル！
夕風は
からだに
悪い
家へ
おはいり
…だれっ
呼んだ？
なあに
どうかして？
エドガー
兄さんよ
兄さん…
あれが…

きみ…また　明日ね……
また明日ね……あれでぼくとおなじ年だって
百も年上みたいに…ぼくを見つめて…つめたい目…青い……。
チャールズ…もっと早く帰ってらっしゃい
心配するじゃないの
坊っちゃん町はずれの屋敷の女の子と遊んでるんですって？
おまえの口だすことじゃないよよけいなこと母さまにいったらしょうちしないから
でもね！へんな家ですよ…窓がひとつもあいてないんですよ
悪いことでもしてるみたい…家中しーんとして
ああ聞きました？だれかが道を歩いてきた話…！
道ぐらいだれでも歩くよ
真夜中ですよ！
神父さまが窓から見たんですって
すごく背が高いマントを着た人が…
すくなくともこの町の人じゃない人が…

町はずれの屋敷のほうへ歩いていったんですって
それだけ？いいじゃない！
わかってないんですね！それだけだから…
こわいんじゃありませんか！
きみの兄さんずっとあそこにいる
気になる？
やだな
じゃ見えないとこにかくれちゃえばいいわ
こっちよ
………

…ねえ　なぜ窓をあけないの暗いだろうに
病人でもいるみたいだ
ひとつところにいつも長くいないの
いつも旅行してるから
この町にもそういつまでもいないわ
…メリーベル！
いいのよ家を町を愛したりしないの
わたしたち
父さまと母さまと兄さんとわたし
じゃ　いつか…どこかへいっちゃうの？
いつかね
いっちゃいやだ！いやだ――いかないで！きみが好きだもの！
…すきとおった銀の髪の少女がいました
そのあまりの美しさに…

そのあまりの美しさに神は少女のときをとめました
…ときをとめました…
…それ初めにあったとき歌ってたね
ああこの歌はねずいぶん昔老ハンナおばあさんが歌ってたのよ
ねぎわにね小さかったあたしと兄さんのまくらべで子もり歌がわりに
歌ってくれたの
…それで少女は…明日も
おばあさんがなくなって…
それから今の父さんと母さんが
あたしと兄さんの親がわりになってくれて
明日も明日も美しい銀の髪を…
……
風に吹かせて少女のままで
永遠のときを生きているのです…
…その歌教えてよ
……すきとおった銀の髪の……

メリーベル!
メリーベル!
きみ　いっちゃうの……
仲よくしてくれてありがとうチャールズ
ぼくは…だってメリーベル…きみのこと好きだから…
メリーベルおいで
…さようなら
ぼくはそのとき初めてメリーベルの一家を見た
このきょうだいをひきとったという美しい婦人と…背の高い紳士と……
春がおわらないうちに…
そうしてメリーベルはいってしまった

その翌朝だったか
翌よく朝だったか
キャ――ッ
おお
アンナ　アンナ
アンナ
な　なんなの
なにが
あったの…
しっ
坊っちゃま
こちらへ
姉さんと
家庭教師が
夜のうちに
かけおち
した!?
あの
まぬけづらの
家庭教師が
そんな
ことを!
それで
ぼくは
なぜ
あのとき
……
メリーベルを
さらって
逃げるほど
機転が
きかなかった
のかと
長いこと
――後悔
してた
いってしまった
初恋は
とまった時間だ
思い出の中で
少女は成長しない
でも
ぼくの時間は
たしかにさらさら
流れつづけ…
年月を
きざみ
いって
らっしゃいませ
お帰りは
早く帰る
銀婚式
だからね
三十年が
すぎ去り
…

結婚二十五年め
では花でも
買って帰ろう
春バラが
いいかな
サンザシが
いいかな
…失礼
お嬢さん
……
え？
はい？

ああ あなたは きっとあの人の 娘さんに ちがいない
あなたのお母さまは メリーベルと おっしゃるのでしょう？
…さあ わかりません メリーベルは わたしよ
わたし… 生んでくれた お母さんのことは なにも知らないの
ではあの人は 娘におなじ名を つけられたん ですね
…あなたの お母さまを 知ってますよ
あのころ わたしはまだ 少年で
おや 笑ってますね こんなおじさんが 初恋を話すのは おかしい ですか？
いいえ… すこしも
ずいぶん古い お話なのね
ええ もう 三十年も昔の…
あなたは…少女だった 小さなお母さんに うりふたつだ わたしは…
そう…歌を 教わってね こんな…
すきとおった 銀の髪の……
あら… 知ってるわ
昔 少女が いいました

…知ってる?
でもだれに
教わって?
そのあまりの
美しさに神は…
あら
エドガー
兄さんが
呼んでるわ
馬車がきたんです
いかなけりゃ
メリーベル
おいで
少女の
時間を
とめました…
さようなら
メリー…
それで
少女は
明日も
明日も
銀色の髪を…
風に吹かせて
少女のままで……

ガタ ガタ
青い
霧とたそがれの中に住み
永遠のときを
生きる一族……

ペニー・レイン

タン
タン
ピタン
タン
ピタン
タン
…この季節はいつもこうでさあ
お陽さまはささねえ
うっとうしい雲に霧
おまけに今夜はこの雨…！
……ちっせえだんなあ
ニューポンからきなすったってえ？
パチャ
パチャ
パチャ
パチャ
だんなあ
そうだよ
う〜〜〜ふ
プル
ほ〜んとにこの雨ん中いまから街道こえてウイッシュまでいきなさるんでえ？
そうだ
雨がふってんのに…？
小雨だ

タ
ニ
タッ
雨なのに
馬が
いかれ
ちまう
パ
チャ
うふ～く
酒場へでも
いって
うぐ
タタン
酒でも
飲んで
いい子
だきてえ
山賊でも
出そうで
あっしゃ
パ
チャ
おお
つめてえ
雨だった
しっけい
ぼっちゃん

カネ出しな
いい子だ
オレたちは盗賊さまさ
この街道に根をはってる
へへえ…運がわるかったなぼっちゃん……
あんた一人か？
…らしいな
こいつはなんだい
ドンッ
カタン
よっ
バタン

どうだってえ
だくめだよ
とっつあん
馬車が一台だ
雨でえものが
めっきりへった
ぎょ者は
ぶっ殺した
客は
つれてきた

客?女客か
カネを持った
ガキだ
いい子だよ

ふーん

なるほどね…
そっちの
でけえ
箱は?

ホトケさん…
なに？
おい あけて みろ
カタン
こりゃ…子どもの遺体じゃないか
なんのまねだ
知るもんですかい いったでしょ ホトケさん
こいつは身内か？おい…！
……！

つれてって
とじこめとけ
ギー
そのガキは
カネづるだ
へい
よ
これは
…？
ホトケさん
じゃしょうが
ねえ　雨が
やんだら
どっかへ
うめてやれ
きな
なんかへんな
ふてぶてしい
ガキじゃねえか
泣きも
わめきも
せん
おとなしく
してりゃ
いじめや
せんよ
これでも
オレたちゃ
気は
いいんだ
へへ
家庭的な
盗賊なんだ
とっさんを
頭に兄弟
十三人

なんだ?
なんの音だ?
ギー…?
…おい
いってえ…!
なんだ!
おまえは
なんだ!?
なにを
いったい

サクサク
サク
サワサワ
ガタ
ガタ！
パシッ
いそげ

早く
ウィッシュの
小さな館へ—
いそげ
いそげ
アランの
目が
さめる
ポーツネル
男爵さまの
若さま…!
あっしを
お忘れですかい
ドンですよ!
半年ほどまえ
ここを
通っていかれた
男爵さまたちの
馬車のおせわを
いたしましたよ!
ああ…
館へ
いくんだ
お館へ?

へえほんとーにいらっしゃるころだとは思ってました
六 七か月後にまたよると男爵さまから聞いとりましたから
お館はきれいにしてございますよ まあ でもこの時期じゃ
殺風景でなにもありゃしません…なんでまた
お一人で？…男爵さまやメリーベルお嬢さまは？
ああどうもかってにしゃべっちまって……

この荷物はここでようございますかいかるうございますね
ああもういいよ
まきや食料の場所はごぞんじですねもし不自由があれば娘でも手伝いに
この館には
近づかないでくれ
貴族さまの考えなさるこた平民にゃ解せん
あんなお館にお一人でつきあいのわるい
でも用がありゃよびなさんだろし
きっと男爵さまたちゃあとからきなさるんだろう
まえもひっそりと立ちよんなさったし

まる
一日と少し
たっているから
今夜遅く…か
明日の
夜明けごろ
までには
目ざめる
だろう
あとはただ
待つだけ
この長い夜を
パタン
時計がきれいに
みがいてある
半年まえと
同じ数
りちぎ者の
番小屋のドン
ひとつだけネジが
まいてある
カチ
野花だ
だれが
かざったの
かな
カチ
カチ
雨の音
風の音
夜の音
火の音
目をおさまし
目をおさまし
アラン

目ざめよ神話
ぼくたちは時の夢
昔がたりと
未知への畏怖が
ぼくらの苗床
ぼくらの歌

さようなら
さようならを
いっておしまい
アラン
人間界の
すべてのものに

わかっているね
ぼくたちが
なに者かこれから
どこへゆくのか
早く
目をおさまし
早く
永遠を駆ける
馬車が出る

おまえ
おまえ
ぼくの
小鳥
ぼくの
愛
銀の髪
おまえ
おまえ
エドガー
エドガー
エドガー!!
エドガー!!

メリーベル
メリーベル
メリーベル
ぼくと くるね
おいでよ
おいでよ
おいで おいで
一人(ひとり)では さびし すぎる

カタン
朝？いまの音は？
ビク
だれっ
あ…あ
……
…でも父さんが持ってけって
野菜？いらない
あたし…野菜を少し…父さんが若さまのじゃまをしちゃいけないって…だから…そっと

時計のネジをひとつだけまいといたのはきみ?
と父さんがそうしとけって
あの花も?父さんがかざっとけって?
番小屋のドンの娘か
朝といってもこの暗さ
アランは―?
―それにしてもこの雨

まだ目ざめはこない
まだ変化しきっていない
パチパチ
パチ
パチ
バタン
どうしたんだ……
まさか!?

まさか…
…そんなこと…そんなことにはぜったいさせない！

パチパチ

そうだ
ぼくだって変化に三日もかかったとシーラはいってた

それでいったらまだ二日めだし
きっと変化がゆっくりと進んでるのだ
アランは

きっとじき目をさます
メリーベルだって

メリーベルだって…
メリーベルは
あの子は ぼくが 仲間に くわえた ちゃんと 一日で 目ざめたのだ …
花の中 花の中 ぼくはどれほど あの子を 愛したろう
だが しけった空気や つめたい夜風 ま昼の陽が
いつも あの子を 弱くした
ぼくたちは よく交流を おこなった
指先から 流れる あつい血を ゆっくりと お互いの中に 流しこむ
古い血は 消化され より新しくなる
メリーベルと ぼくは よりそって
ときには 半月も 静かに ねむりこんで いた
メリーベルの 弱さは あなたのせいよ エドガー

あなたの血はメリーベルにあわなかったのだわ
あれだけの濃さをもちながら
おかしなことだが
まあおまえは一族のうちでもいろいろと特異だからへんだからしようがないおまえは異常だからかわりものだからおまえは
まだときどきは人間にもどりたがってる
バラを散らすその手を持って――!
ときどきじゃない
いつだってもどりたかった
なのにメリーベルの手をとって
エドガー!エドガー
殺してしまった!――殺してしまった
ぼくが仲間にくわえて

エドガー！
エドガー！
アラン！
目を！
ぼくは一人で
思い出ばかりを
追いすぎる
——なぜ目を
さまさない
きみを
つれてきたのが
まちがい
だったと
しても
ぼくが
生きては
いけないもの
なのだと
しても
たのむから
目を
さまして——
アラン
雨
—雨
なんて暗い——
……雨の
せい……？

湿気だろうか？
この重い――
なまぐさい――
これがアランを
目ざめさせない
メリーベルも
水にはたいそう
弱かった
雨がやめば
やみさえ
すれば
……
パタ
パタ
パタ
パタ
パタ
おいでよ
おいで
おいで
一人では
さびし
すぎる
さびしすぎる――

ピ。ウン
朝か…陽がさしてる
何日ぶりかな
雨があがったのか
雨が…
アラン！雨があがった
アラン！
アラン……

アラン…
アラン!?

出てった？
バカな！
目ざめたままで
かわいた
くちびるの
ままで
いったい
どこに
どこに
どこに
へたに
人間を
おそったり
したら
アァン
彼もまた
殺されでも
したら！
お館の
若さま！
……ドン！
いま 知らせに
いくとこでした！
外に出ない
ほうがええ
うちの娘…
山賊に
やられた

二日まえ
…いつ!?

…でも
父さんが
そうしろ
って
昨日から
村のものと
役人衆が
山を狩って
四人殺した
街道からむこうに
盗賊が出るとは
聞いてたけんど
雨でエサがなくて
村まで
きやがったんだ
銃
あつかえ
ますかい
若さま

二人ほど
まだ
つかまんねえ……
あの森のほうに
追ってんで
こっちのほうは
大丈夫と
思うけんど
念のため
わかった

見つけたら
うち殺して
くだっせ
いいでっか
うち殺して
くだっせ!
……

……街道で
おそってきた
やつらの
生き残りだな
西の森のほうが
村中で狩りでは
夕刻までには
つかまろう

どこだ
アラン
どこを
さまよって
いる?

戦ったのは
一角獣とライオン
母さんとマーゴット
おじさんとおばさん
ここはどこ
まぶしいな
眠い
光にとつぜん夢をけられて
手足がもげそう
これも夢かな
真昼の夢かな
ひどく怠惰
ひどく　おっくう…
なにか　ほしい
なにか　おくれ
だれか　そこに
そこに　だれか
いる　はず
なにか　おくれ

たて…たてっていってるんだ
どうした
こいつクツもはいてねえぜ
だが丘の中腹の村のやつらは西っがわの森をさがしてる
館のガキだろうえ？
歩け！さあ！
夜まで館にかくれてて
どうしたこいつ病気じゃねえか
闇にまぎれて逃げてやる
おっかねえ百姓どもめ
またふってきた
あにいキズいたまねえかい
ああそれより用心しろ…
ちっくしょう百姓どもめ
いつかみな殺しにしてやる

ドッ!
イザック……!!
なんてガキだ 会えてうれしいぜ…
カチャ
二連発じゃもうカラだ おあいにくだな
いいか 悪魔のガキめ

……あとで
おまえをぶち殺して
やるぜ
仲間の分
ぜんぶな
街道で見つけた時
…殺ってりゃ
よかったんだ！
…さあ…
こっちへ
きな…
手をあげてな
うたれたく
なけりゃな
こいつと
…あんたが
つかまえてる子
あのとき箱に
はいってた
ホトケさんだよ
手を
あげろっ
てんだ！
手を…
わ…!!

アランの
最初の
えじき……！
かわいそうに
この男
自分がなに者を
相手にしたのかも
気づかぬうちに
死んでしまって……！
おい
ここだ
一人…
二人
死んでる！
これで
ぜんぶか？
盗っ人は
仲間われでも
したのか？
アラン

急激な変化と
急激な目ざめ
—アランは夢うつつ
おまけにこのキズ—
この雨がやめば
キズ口はすぐにでも
いえるのに…
いまいましい
湿気…!
血はあふれて
流れてる
ばかりだ
このままでは
村は
さけよう
ウィッシュ村は
一致団結が
強固

ハッ
なんだ? きみは……!
キャ
…おお
くすん
お人形みたいな子だ
たいした血の量じゃないな だが ほうっておいても 餓死か凍死だ

運よく
だれかに
拾われたと
しても

両親の
いない
貴族の娘じゃ
ゆく末は
知れてる

…名まえ
は？
…リデル

パチパチ
パチ
パチパチ

火だね
かわいた
空気を
つくるよ
どう気分

わかんない…
なんだか
ぼうっとして
どこまでが
夢なのか…
いつ目が
さめたのか…
わからない
覚えてない…

でも
ぼくが
わかるね
うん

「ペニー・レイン」1975年3月

はるかな国の花や小鳥

森の風
遠い城
花の中の
幸せ
緑色の
目をしていた
あなた
あの日からずっと
あなたの夢を
みている

だあれ…!?
ああ
あまり
きれいなので
花どろぼうは
罪にはならないわ
ほしければ
切ってあげ
ましょう
おはいりなさい
その木戸は
あいてるわ
この町の人では
ないわね?
ええ
来たばかり
どこから?
まあ青い目
……
わたし
わたしの庭で
一角獣を
つかまえたわ

さあ
こちらへ来て
一曲歌って
とりこに
なった
ユニコーン

これは
知ってて?
バラを切って
くれるのでは
なかったの?

一声に
一本だよ
いくらでも
Long
Long
Time ago

Long Long
Time ago

baby, little my

いらっしゃい
みんな
こちらは
新しい
お友だち
この町に
来たばかり
ですって
そうだわね?
これは
わたしの
つくった 町の
合唱隊なの
あなたも
加わって
いい声だわ

…でもあまり長くはこの町にいないのだけど
それに今日は友だちが待ってるし
待っててバラを切るわ
ジョウ音あわせをやっててちょうだいな
こんにちはミス・バード
こんにちはヒルス先生
なんて幸せそうに笑うご婦人かしらぼくがどこのだれか聞きもしないで
歌うのは好き？
きらいじゃない
じゃあさとげをささないで
明日ねユニコーンわたしエルゼリよ
どこの子だ？
よそもんさ
ぼくは…エドガーだよ

ザワ
ザワ
ねてたの?
うん
わ
いいにおい
一本
だめ
家へついてから
だれか来た?
だれも

これ
どこで？
町はずれ
ミス・エルゼリの
バラの庭から
ふーん
それどんな人
きれいな
人？
きれいな
人
伝説を
ぶりかえすのは
好ましく
ない
合唱隊を
つくってるん
だって
歌うはめに
なった
きみも
くる？
なんでぼくがさ
ここは
静かだけど
一人で
おいとくのは
心配なんだ
きみはわりと
ドジだし
ぼくの…
どこが…
！
まあよいけど
季節のめぐみを
うけぬ手はないから
ぼくは行くよ
夜ごと
さまよう
吸血鬼の
でも
くれぐれも
ご用心
くいを
うちこまれ
ないように
ばれれば
それで
おしまいだ
たとえば
メリーベルの
ようにね

こんちは
エルゼリ！
こんにちは
ジョウ　みんな
まあ
エドガー！
さあはいって
木戸が開いてるわ
来てくれて
うれしいわ
うれしい？
ええとても
おい！また
あいつ来たぜ
え？
昨日の
よそものかい？
その木戸は
開いてるわ
わたしの
青い目の
ユニコーン
ほんとうに
この婦人は
やさしく
笑うので
たちまち
ユニコーンは
バラの庭に
とらわれて
しまう
ミス・エルゼリを
うっとりと
見てるぜ
ムー
気にくわん！
あなたは
テノールね
いい声だわ
さあ
来週までに
新しい曲を
おぼえま
しょう
いい譜面
がとどい
たのよ

アーはアップル・パイ―マザー・グースより

これはわたしを育ててくれて五年まえなくなった伯母のバラの庭だったのよ
わたしはうまく手入れができないのだけど毎年六月からクリスマスまで花でうまるこの庭が大好きよ
あなたは好きなものばかりなのだね
なにもかも好きでたのしくて幸せそう
陽にすけておくれ毛は銀色遠い少女を思いおこさせる

そんなにすてきな人なの？
すてきだよ
きみも来る？
年増に興味はないもん
少女のような人だよ
へえい
待てよ！
おまえこの町のどこに住んでんだよ
教会へ来てんのかエルゼリが甘いと思ってつけあがんなよ！
よそ者め！
こんにちはミス・バード
こんにちはヒルス先生
顔洗って出直してきなガキ！
ガチャン
わ
わー
わーん
わーん

元気なのはいいがケンカはいかん
こ こいつが
仲なおりしてね おねがいよ
はん ぼくが?
ギャーーッ
こら こら
エルゼリがそう言うんで和平条約むすぼう
自転車貸したってもいいぜ だけどあまりエルゼリとベタつくなよ
きみは年増好みか
エルゼリはまだ若いよ!
うん あの先生毎日通るじゃない お似合いかもね
これだからよそもんは…
エルゼリはだれとも結婚しやしないよ!

なぜ?
恋人に
すてられ
たんだ
もう
十年くらいまえの
話だってさ
母さんが言ってた
ハンサムで文なしの
ハロルド・リーと
いい仲に
なったけど
彼は
金めあてに
商人の娘と
結婚しちまっ
たんだってさ
それで
恋人への
はらいせに
独身で
いるんだって
かあさんが
言ってたよ
女って
執念深い
から
なにもかも
好きで
幸せそう
だね
思い出の
においの
する人

エドガー！
こんな日にまで
出かけるの？

家においで
きみは
湿気に
弱いから

まあ…！
エドガー！

この雨では
だれも来ないと
思ってたわ
家は近く
なの？
ぼくは
とらわれの
身の
一角獣だから

夕方ごろには
やみますよ
この雨で
かれかけてた
芝がまた
青くなる
よかった
こと

ヒルス先生だわ
雨の日も
往診だなんて
たいへんね

そ　しかも
わざわざ
遠まわりして
この家の
まえを
通ってね

あの人　あなたに
何度も
プロポーズしてるって
聞いたよ　エルゼリ
でもあなたは
恋人にすてられた
はらいせに
独身で
いるんだって
うわさ　ほんと？
そら
あなたは
また笑う
話してよ
お城を
……
見たのよ
あのころ
わたしは十六
あの人は二十
あの夏
ホービス市から来た
あの人と
恋におちたの…

行かせたら帰ってこないと思ったわ

それだけ?
…そうこたえた
あの人が
世界中でいちばん
好きだったの
やがて彼は帰り
約束した手紙もこず
結婚したと聞いても
わたし
少しも
不幸じゃ
なかった
あの人きっと
奥さまを愛し
奥さまも
あの人を愛し
生まれた
子どもを愛し
家庭を愛して
いるのでしょう
でもわたしは
幸せ
一人
バラの庭
とても…
幸せ
こんな人が
いるなんて
—
むかしむかし
メリーベルが言ってた
兄さん
わたしたちは
いつまでも
子どもでいられるの
だから
いつまでも
はるかな国の
花や小鳥の
夢をみていて
いいのね
—って

なにが
はるかな国の
夢なもんか
へんなんだよ
その人！
かけてもいいけど
その恋人なんて
女の人のこと
ぜったいおぼえて
なんか
いないから！
でもずっと
愛して
るんだよ
出かけ
るの!!
約束
してるしね
それに
バラを
もらうし
…毎日じゃない
そんなに
あの人がいいの？
たまには——
家にいたって—
きみも来れば
いいさ
だれが…！
やさしい人だよ
仲間がふえるの
喜ぶよ
きっと
ガキと年増と
ピーチク
歌えるかい
おかし
くって…！
じゃ
一人で
待ってろよ
……
ぼくのことなんか
どうだっていいんだ
どうせ
メリーベルの
かわりだ
ものね！

アラン
アラン—ごめん
エルゼリ
エルゼリ
わたしが住むのは
バラの庭
目にうつるのは
愛の鳥
なぜそう
幸せで
いられるの
愛する人が
そばに
いないのに

エドガーは?
それがぼくんちへ来て自転車借りてったよ
ハロルド・リーならウィースロードに住んでるけどいつもはそこに昼食とりにくるよ
ハロルド・リー?
そうだがきみは?
エルゼリを知ってる?

エルゼリ…？
だれのことだね？
きみ？
きみ
ちょっと待って…
きみ!?
おぼえて
いなかった！
むりもない
十年も
むかしの
ひと夏だけの
恋人なんて
エルゼリ
エルゼリ
幸せなひと
幸せな
ひと！

――だあれ？
どうしたの？こんな時間に
ホービス市からいまもどってきたとこ
ホービスだよ！あなたの恋人のいる町だよ恋人に会ってきたあの人……！
あの人あなたのこと……！
あの人どうだった？
…覚えてたよ……
茶色のまき毛緑の目してた？
くちひげをはやしたって聞いたわ似合ってた？

恋人がたとえ覚えてなくともこの人には問題ではないのかしら…
幸せなんかじゃないでしょう
ほんとうは恋人をうらんでるんでしょう
ほんとうはさびしくてたまらないのでしょう?
だってーだって現実に恋人はあなたのそばにいないんだ
目をさましたら?あなたは夢をみてるんだ
みんな現実に直面してなやんだり憎んだり悲しんだりしてるんだなぜ?
あなただけ幸せでいられるはずないよ!
はるかな国はどこにもないよそんな国には人は住めないよ
エルゼリ
でも憎むのはいや
悲しむのもいや

悲しみも
憎しみも
それらの心は
行き場がない
わたし弱虫
そんな感情には
たえられ
ない
だから
あの人を
愛していたいの
それだけで
幸せで
いられる
これが
わたしの世界
わたしの浮遊できる世界
あの人の愛が周囲を
とりまいてる
世界
遠い想い
遠い想い
わたしが
住むのは
バラの庭
くちずさむのは
愛の歌
日び
思うのは
やさしい
人
なぜ　そう
幸せで
いられる？
なぜ
幸せで
いられないの？
……
たとえば
…妹がいない
妹がいない
あの子はどこ？
思いおこすだけで
幸せには
なれない
どこに行ったん
だろう　また
生まれてくる？

バラをつんだのは妹さんのためだったの？

あれは友人にでも彼は妹じゃない

…これが愛でね手をのばせばとどくの

あなたの愛あなたの妹の愛

行き場があるのはいいわばらをうけとってくれる人がいるのはいいわ

エドガー
エドガー
エドガー兄さん……
ここは遠い国……はるかな庭
ガチャッ
思い出の国から帰ってきた自分
そしてバラをわたせる
でもあの人には想いばかり想いばかり
ごめん…
いつかあの人は夢からさめることがあるのかしら…

あなた
おからだのぐあい悪いのに早く帰ってらしてね
ああいってくるよ
きみ！
きみ…!!
だれのことだったろう
エルゼリ
あれから考えてはいるんだが
お嬢さま！お嬢さま！いましがたね！
グラッセの奥さんがハロルド・リーのおそうしきにいらしたって！

自転車にのった子がころぶのを助けて自分は馬車の下じきになったんですとまあ
さっきまでこの世界わたしのものだったのに
…今日はこれでおしまいわたしオルガンがひけないわごめんなさい
ごめんなさい…
悲しみはいや憎しみも早くねむってしまおう
ねむってしまおうはやく
もう目ざめまい明日からは
庭のバラはかれてしまう明日までに

エドガー！
きょうは
歌の練習
ないよ！
エルゼリさん
まっ青さ！
なに？
ハロルド・リーが
死んだって
たった今
ばあや
さんがさ…
エドガー
？
エルゼリ!!
悪たれ！
お嬢さまは
お部屋で
おやすみだよ
こらお待ち！
エルゼリ
あけて
エルゼリ
エルゼリ

ギャー
先生！
先生を！
エルゼリ！
エルゼリ！
目をさまして！
目を
さまして！
起きて！
エルゼリ！
帰って
おいで
夢の園から
小さな少女の
エルゼリ

大丈夫
ばあやさん
大丈夫
早く気づいて
よかった　もう
心配ないから
ね
…しかし
まったく…
あの人は
あの人が
目ざめたら
お城の話を
してごらん
…え？
目ざめて
人間に
もどった
らね
あの人には
あなたが
必要だよ
今こそ
ムシがよすぎる
エルゼリ
あなた
自分のためにだけ
生きて
助かって
よかった
あの人はもう
恋人の
ことなんて
わすれてさァ
ヒルス先生と
結婚すりゃ
いいんだよ！
ほんとうに
うん　ほんとうに…
ほんと……

この町を
出よう
今すぐだよ！
エドガー!?
…急だね
いつも急だけど
じゃ上着
とってくる
きみ
あの庭の女の人に
さよなら
言ってきた？
…何か
おこってる
の？
エドガー
どうして
ねえ
なぜさ…

お城のことを
きいた医師に
ほほえむだけで
なにも
言わなかったと
聞きます

それからは
合唱隊の
指揮もやめ
だまって
花を見
もの想う
毎日だったと

日び
想うのは
やさしいひと

あの人は
人間には
なりえなかった
のでした

わたしが
住むのは
バラの庭

たぶん
生まれながらの
妖精だったの
です

くちずさむのは
愛の歌

あの人は
夢に浮かぶ
はるかな国の
住人だったの
でした

「はるかな国の花や小鳥」1975年7月

まだ覚えていますよ
一人の彼の名は
エドガー
もう一人の
彼の名は
アラン
リデル・森の中
彼らはわたしを
リデル人形と
よんでいたのです

そこはいつも森の中
ある時はしらかば林

またある時は花の野辺

水辺の谷間
いちいの森と

夏がくるといつも森からべつの森へと
わたしたちは移り住んだのでした

時どきだだもこねましたが
いやん　いやん　ここ好きなのに　リデル　ここにいたいのに
さあ

リデル人形いい子だね　今度行くとこには桃の木があるよ
モモ?
かわいい花だよ　ぼくたちは知ってる
リデルにも見せたいな

わたしはいつもなだめられ
心ははや次の森へ

わたしはたくさんのことを学びました

なにしろこのころエドガーとアランのほかに人間なぞ一人も見たことはなかったので

少し
大きくなったころ
次の森へ行く途中
初めて村と
村人を見ました
へい
いらっしゃい
リデルったら
さっきから
目をまるく
してるよ
――こわくは
ありません
でした
エドガーと
いっしょ
でしたから
でも
わたしより
小さい子
たち
エドガーと
アランより
巨大な
人たち
なあぜ
なあぜ
なあぜ
なあぜ
あんなに
たくさん
なぜ人が
いるの?
あの人たちも
夏にはべつの
森を
さがすの?
大きい人
なあに?
小さい人
なあに?
コールド
チキン
きらい
食べるの
人はね
毎年
ひとつずつ
大きく
なるんだよ
リデルは
…七つかな?
今年で
エドガーは
十四かな!
ちがうの!
エドガーも
アランも
どうして
チキンを
食べないの!
リデルに
ばっかり
食べさせてェ!
それは
ほんとでした
彼らは 香りのある
お茶のほかにはは
ほとんどわたしへの
おつきあい
ほどにしか
ものを
食べません
でした
…それはね

リデルが大きくなるからさ
リデルはぼくたちよりも大きくなるよ
さお食べ
キョン
わたしがエドガーたちより大きくなる?
エドガーはいまだってわたしの倍以上あるのに
エドガーは?
アランは?
ぼくたちは……大きくならない
じゃリデルも大きくなんなーい!
カチャン!
セッセセッセ
バラはいつも移り住む家の庭に窓に咲きみだれていきました
罪をおかした血のようにあまりに赤く美しく
いいたげに風にゆれ
もの

森での
世界は
調和をもち
歌のように
日びはすぎて
ゆきました
それでも
時おり
わけもなく
不安に
なったのは
なぜでしょう
エドガー！
アランを
いじめちゃ
だめでしょ！
アラン
泣いてた
から！
時どき
おこる争いの
中で
つねにわたしは
アランの
味方でした
どうして
ケンカ
するの？
彼の
ほうが
弱かった
ので
…エドガーは
ぼくが
きらい
なんだ…！
うそよ
うそなもんか
リデルも
きらい
なんだ！
…うそよ
ほんとさ
いつだって
追い出すって
いってるん
だから！
リデル！

どこへ
行ったんだ　リデル
どこにもいない
アラン！知らないか？
ピク

追い出す!?
リデルに
そんなことを
言ったのか!?
ほんとの
ことじゃ
ないか

あの子は
……
わあん！

リデル！
ずっと
ここに
いたの？

リデルを
追い出さ
ないわね
リデル
追い出しゃ
しないよ
リデルを
きらいじゃ
ないわね
リデル
ちっとも
！

アランも？
もちろん
みんなで
大きく
なるのよね
そうだよ

でも
結局――
わたしは
森から
出なければ
なりません
でした

でも
あなたも
ふしぎなかたね
どうして
うそかほんとかも
わからないような
こんなおばあさんの
子どものころの話を
お聞きに
なりたいの
オービン卿？
……
いつでも
エドガーという
少年の名が
わたしを
よびよせて
やまないのですよ
でも
わたしの
話は
今度
どうぞ
つづきを
リデラード・
ソドサ夫人
あなたは結局は
森の中から
町へ
帰ってきた
のでしょう
……
ええ……
祖母のもとに
祖母はわたしが
二つの時に
ゆくえ不明に
なってから
ずっとずっと
さがしつづけて
いたのです
わたしの
両親は
馬車旅の
途中で
なに者かに殺され
わたしは…たぶん
さらわれたのでした
……
いろいろと
空白の部分が
あります
わたしは
エドガー
たちに
どうやって
出あった
のか
彼らは
わたしの
両親の死を
知って
いたのか
でも…とにかく
わたしは
彼らと
暮らし
どうやって
エドガーが
わたしの
祖母を
みつけ出した
のか――
十歳の
春に……

わたしは
ずいぶん
あとになって
(すっかり
おとなに
なって)
このお話の
のってる
本を
見つけました

それは
古い
北欧の
物語でした
……

それが
あの時
彼が
わたしに
してくれた
お話
でした

わたしは
くり返し
くり返し
読む
たびごとに

あの時の
火が
あたたかさ
あかるさを
わたしの
胸の
どうきを
思い出し
ました

一度村を
見たことが
あるとはいえ
木のかずほどの
家いえ　葉のかずほどの
窓　窓　また窓
そのひとつひとつに
顔　顔　顔　顔
わたしが
初めてみる
町に
おどろき
あきれてる
うちに
馬車は大きな
家のまえでとまりました
カラン♪
カラン♪
カタ!
リデラード!?
リデラ!!

リデラ
リデラ
おばあさんよ
エドガー！
いや！

おばあさんよ
あなたの
……
リデラ
さがしたのよ
きっと
生きてると
エドガー!!
アラーン！

ドアをしめて！
その子を
出さないで！

エドガー!!
エド
ガー！

これは
どういうこと？
これは
どういうこと？
彼らは
どこにも
いない
なぜ？
わたしを
追い出した？
なぜ？

うふ

リデラ…

――でも
結局わたしは
育ちざかりの
十歳の
少女でした
わたしは
やがて
なれました
それまでに
わたしはたびたび
熱を出し
口をきかず
ものかげに
かくれ
でもやがて
わたしのために
買ってもらった
イヌに
なつき
病熱のため
ひきこもった
いなかの
別荘が
気にいり
たえず
わたしに
ほほえむ
祖母が
好きに
なりました
そうして
わたしは
森の世界から
ひきもど
された
人間の世界で
目ざめ
歩き出す
ことを
始めたの
でした……
わたしは
作法や
人や町や
うわさ話や
つきあいや
殺人事件や
新聞や
おせじや
パーティーや
いろんな
ことを
知り始め
ました
お茶
飲む？
おばあ
さま
リデルや
いい
お嬢さんは
お茶いかが？
というのよ
きれいな
服を
着ている子は
お父さんが
えらいの
だとか
きたない
服を
きている人は
お金持ちでは
ないのだとか
……
そういった
ことが
形をとり
始めるころ
――

とつぜん
——
わたしは
気づきました
エドガーは
大きく
ならないの？
ぼくたちはね
まるで
絵から
ぬけ出た
画像では
ないか
わたしの
育ての親たちは
——
なに者だったの
だろう？
毎夏
毎夏
新しい
バラを追って
森を
かけて行った
彼ら
は——？
コールド
チキンを
お食べ
大きく
なる
ために
エドガーは？
十四……
ぼくたちは
大きく
ならない
大きく
ならない——
彼らは
そのままなのだ
わたしだけが
年ごとに
年をとり
だから
彼らは
わたしを
見はなし
たのだ
わたし
だけが
年を
とり

わたしは毎夜
窓をあけて
眠りました
成長を止めるには
死ぬしかなく
でもわたしは
死ねやせず
それでも
彼らが
とつぜん
訪れは
しないかと
そして
いつか
窓を閉じ
たのでした
わたしは
結婚しました

そうしてさらに
年がすぎ
すっかり
生まれた時から
いい両親のいる町中の
いい家庭で
育てられた
かのような
婦人ぶり
わたしは
夫を愛し
こどもたちの世話をし
友人と語りあい
いそがしい
幸福な日びに
満足
なのです
—でも時に
パチパチ
パチパチ
パチ
そんな日びの中で
どうしようもなく
せつなく
昔の
わたしが
うかんで
くる

「リデル♥森の中」　1975年４月

いっしゅうかん
一週間

――アラン
ン……
なにじゃないか…雨もう出かけるの
時間を約束してるんだ用意して
…ぼくが湿気に弱いの知ってるくせに病気になっちまう
もう気分悪い
やだやだ
じゃるす番してな
ぼく一人で一週間したら帰るから
悪さするんじゃないよ
……
バタン

…ぼくが
一人でいると
いたらぬことを
すると
思ってる
…一週間
今日は月曜
日曜までか
一週間!
つべこべうるさく
言うエドガーは
いないんだ
じゃ
好きなことが
できるんだぞ!
好きなだけ
ベッドで
はねたり!
ねまきの
まま
家中
走り
まわったり!
Monday's
Child is fair
of face
Tuesday's
Child is full
of grace
What
would
we
have to
drink
雨だけど
やまない
かな
Rain rain
go away

火曜日
Rub-a dub-dub
Allan in a tub s
Who do you think they
…あれ
ありがとう
どこから来たの？
この先の家 いとこと 先週から 来てるの
あなたは 川のむこうに 住んでるの？
うん…
キャー
ぴら

なななななにするの
ひひひど
ひどいわ
お 女の子に
わっ
そんな泣かせるつもりなかったんだよ
きみがお人形みたいなもんで…
スカートの中も人形と同じかなって…
ごめん泣きやんでよ…
パン
バタ バタ
カレン！どうしたの？
ジューン
ジューン
わあ〜

ジョージィ ポージィ プリンとパイ
女の子には キスして ポイ
ポー
あーら！
あなたね！ 昨日カレンに失礼なことした子って
じゃ きみあの子のいとこなわけ
これとどけてよ
ぼく悪かったって
じゃね
ま…
カレーン
こんにちは
昨日はお花をありがとうってカレンが
ね カレン

アランっていうの?
あら じゃおない年よね
ずっとここに住んでるの?
ね カレン
川むこうには行ったことないのよ
ね カレン
花の咲いてる大きな木があるよ行ってみる?
ステキ! じゃ ね あした ピクニックの用意してくるわ
いいよ 晴れれば いいね
ジューンはずるいわ ずっと一人でしゃべってて
あした ねえ
なに言ってんの あなたもしゃべんなさいよ それともあの子きらい?
わたしすっかり気にいっちゃった
あたしが… あたしが先に彼に会ったのよ!
先に会ったのよ あ あの人あたしにキスしたんだから!
イー
ベー
And now Good night
Our play is done

あら
おめかしね
二人とも
ピクニックよ
ママ
行ってきます
おばさま
わたしが
焼いたのよ
アルファベット
クッキー
頭文字で始まる
歌を歌いましょうよ
わ
かわいい
水をくんで
くるわ
どうしたの
──ピクニックは
つまらない
カレン？
そんなこと
ないわ　あたし
楽しみで…でも
でも？
おしゃれして
きたんだね
とても
かわいいよ
…
ほんと？

ジューンより?
うん
キスしてもいいわよ…?
ん?
ねえ ちょっと見てえ
これ小鳥のヒナよどこから来たのかしら
上に巣があるんだ 返してやらなけりゃ
あら わたしも
ジューン! あぶないわ みっともないわよ
へいき
ふふ わたし おてんばなの びっくりした?
うん
カレンみたいにおしとやかなほうがいい?
うん
あら たくさんヒナがいるのね
カレンが好き?
きみだってすてきだよ
ほんと?
ジューン
アラン

おかえり 楽しかった？
ええママ とってもおばさま
なんで すってぇ
Kissed the girls made them Cry
おんなのこには キスして ポイ
あたしの ほうが かわいいって キスして くれたわ
まあ それは わたしに よ
こーんにちは アラン!!
ジューンの 馬よ のれる？
のれるよ かわいい 馬だね
でも少し 気が荒い のよ

ヒヒヒヒヒン
パォン
カカッ
カッ
今よカレン!
サッ
いい馬じゃない!
わたしたちをからかったバツよ
このプレイボーイ二人に同じこと言ったわね
キキィ
ドサ
アラン!!
キーッ
アラン!?
アラン!!

しっかり！
しっかりして
どうしよう
死んじゃった
!!
そんな！
そんな
アラン　アラン
ああ　どうしたら
いいの
ごめん
なさい
ごめんなさい
アハハハハ
だま
したわ
ね――っ
アー!!
いったい
どっちが
好きなの
どっちも
そんなの
ずるいわ
ハハ
アア
明日は
日曜日ね
わたしたち
町の教会へ
行くの
あなたは
行く？
ううん
じゃ月曜まで
遊べないわね
月曜日ね
バァイ
日曜日！
一週間めだ
エドガーが
帰ってくる日だ
あの子たちと
遊んでたら
あっというまに
すぎちゃったな

今日のいつごろ
帰ってくるかな
お昼かな
そうだバラを
切っておこう
バラのトゲはきらい
血もきらい
夕がた
すぎかな
帰るのは
おそく
なりそう
帰って
こなかった!
—月曜日—
なにかあったん
じゃ…ううん
エドガーに
かぎって…
でも
一週間で帰ると
言ったのに
あの子
来ないのかしら
今日はお天気も
悪いわね
どうしたの
かしら

川むこうに住んでるって言ってたわよねえ
ええ
わたしたちへんね
あの子ってそら
ほんとにいたのかしら?
いたわよ
森の精みたいじゃない? わたしたち名まえしか知らないわ
…じゃあ今日はぜったい帰ってくるにちがいない一週間って言ったもの
……雨
バタン
湿気はきらいだ!
パチパチ
ぜったい今日帰ってくる!
コトン

ただいま
さびしかった?
うん
ごめん
雨でおくれてね
段取りつけてきたよ
明日たつ
え
じゃもうここ ひきはらうの?
リトルヘブンまで行ってドーバーをこえるよ
ポラスト先生が待っててパスポートをくれる手はずだ
雨でも行くからね
んーー
一週間どうしてた
なんにも…
たいくつだった

「一週間」 1975年10月

ポーの一族第一巻——終わり——

●エッセイ

バンパネラの封印

小池修一郎

私を宝塚歌劇団に送り込んだのは萩尾望都である。と言うと御本人は濡れ衣だと仰るだろうが、学生時代の友人たちなら証言してくれる。入団してから二二年間殆ど人に言ったことがないのだが、思い切って告白してしまおう。

萩尾望都の存在を教えてくれたのは、一九七五年当時早稲田の仏文科にいたY子である。高校時代から「キネマ旬報」に投稿していた映画マニアのY子は、英国映画『悪を呼ぶ少年』と『トーマの心臓』の比較論を熱弁した。ハギオモトを知らなかった私は少なからず軽蔑され、たかが少女まんがじゃないかと言うと「萩尾望都だけは違うのだ!」と頑として譲らない。自分がいた慶応の劇研に帰ってN子に聞くと「実は美容院でエドガーの頭にしているの」と言われ、二度ビックリ。エドガーは夢に出て来ると言う。そこで彼女が美容院に持って行った『ポーの一族』を借りて読むことにした。少女まんがを読むのは中学の時の楳図かずお『赤ん坊少女』以来である。高校が男子高だった私は、女子校の文化祭を覗きに行く時のような、禁忌を破るスリルを感じながらページを開いた。

ハマった。二度と後戻り出来ない異世界へ誘うエドガーの挑戦的な眼差しは、三無主義

と形容された不安定でコアのない自分たちの世代を攻撃して来るような感じがした。闘争＝青春だった団塊の世代の爪痕はあちこちに散らばっていたが、私たちの合い言葉は「かったるい」で、世の中の面白いことは全て上の世代が食い尽くした後のような気がしていた。アングラ芝居の全盛期で御三家と呼ばれる劇団すらあったが、それは確実に上の世代のものだった。きっと何か強烈に自分たちを引っ張ってくれるもの、戦うべき相手が見えているものに憧れたのだと思う。何だか余り面白くなさそうな未来を前にして燻っている自分も、アランのように思い切って異世界に飛び出すか、クリフォードのように本当に自分の愛するべき対象＝なすべき責務を見出させてくれるものに出会いたかったのだ。「もうこっちへ来たら帰れないいんだぜ」と言って決断を迫る何かに。だが、それは間もなくやって来た。

就職という極めて現実的な問題である。

芝居とか映画とかを趣味に留めるのか、なりわいと為すべく歯を食いしばるのか決めなくてはならない。あくまで現実逃避型の私は映画『グリニッチ・ビレッジの青春』を真似て、ニューヨークに演劇留学するのだとうそぶいた。しかし先立つものが無い。フリーターなどという呼び方すらない時代である。どうしたものか考えあぐねているうちに秋も終わりになった。みんなが就職先を報告し合っている頃、誰も通らない教務課の廊下の一番隅に一枚のビラが人目を避けるようにひっそりと張り出されたのだ。宝塚歌劇団の演出助

手募集である。うちの大学から受けたのは私一人だと思うから、正しく私だけの為に張り出されていたようなものである。

今振り返れば、アングラ芝居にのめり込んだのは曲がりなりにも歌や踊りが入っていたからではないかと思う。数少ない「ミュージカル」と冠されたものは何でも見ていた。宝塚もその一つであり、従って女性だけの中身には全く抵抗無かった。締め切りが迫っていたので兎に角ダメもとで試験を受けたのだ。迷ったのは合格の返事を貰ってからである。

「イヤならすぐ帰ってくればいい」「十年は我慢しなくちゃダメだ」。友達からは様々な意見が出た。「で、将来一体何をやりたいの?」と突っ込まれる。宝塚という存在が自分の中で大きすぎて、何とも答えられない。その時誰かが言った。「ポーをやればいいじゃない」。そうだ、そうだとみんな納得して終わったような気がする。宝塚といえば「ベルばら」だったし、私の萩尾望都フリークぶりを知っての超イージーな思いつきだった。「そうか、ポーか」胸のつかえが下りたように単純に納得した私は「エドガーに寿ひずる、アランは大地真央」と少年に見えそうな当時の新人で、勝手にキャスティングを考えた。

入団した途端、この考えは甘いことに気付かされた。男役の二枚目スターは背が高いのである。少年には大きすぎるのだ。バンパネラはそう易々と手を付けるのを許してはくれない。それ以来私の「ポーをやる」アイディアは封印されてしまった。

そして一一年経った一九八七年。前の年にやっと作・演出家デビューしたばかり。次な

る機会が何時訪れるとも知らぬ身故、第二作にどうしてもバンパネラものをやらねばならぬと思った。少年がダメなら、大人で勝負！　と開き直って、『蒼いくちづけ』というドラキュラ伯爵の物語を創った。幸い紫苑ゆう他の出演者の殆どが『ポーの一族』を読んでおり、おぞましいホラーではないかという外野の声をものともせず、狙いである耽美性を一〇〇％表現してくれた。地下にましますドラキュラ伯爵の救いか公演は好評で、たった五日間だが東京でも上演された。この時、当然、萩尾望都先生をお招きした。果たしてモー様のお気に召したか否かは不明だが（恐れ多くて感想なんぞ伺えなかったのだ）以後私の公演は殆ど観に来て頂いている。

一九九六年になってウィーン産の『エリザベート』という、「死」を主人公としたミュージカルの宝塚バージョンを創ることになった。宝塚で、「死」という概念でしかないものを主役に据えるのだ。果たして観客の共感を得られるかとてつもなく不安だった。然しよく考えてみれば、滅び行くものの美と論理こそが『ポーの一族』のテーマではなかったか。そう捉え直すと、ドイツ語の難解な作品も我々の美意識に馴染ませることが出来ると思えた。ドイツ人の原作者が『ポー……』を読むことが出来たら何と言うか、是非聞いてみたいと思う。九〇年代のヨーロッパの知性をも七〇年代の萩尾望都は凌いでいるのである。

『ポー……』のミュージカル化に挫折したまま二〇年以上が過ぎてしまった。最初に教えてくれたY子は目標通りフランス文学の翻訳家になったが、いまだに風呂無しアパート住

まいである。単行本を貸してくれたN子は早稲田小劇場の研究生になったものの病気で退団、職場結婚で三児の母となった。今もエドガーは彼女たちの夢に現われるのだろうか？　その時エドガーは何と言って彼女たちを誘うのだろう？　今や大人であることから逃れられない彼女たちは、エドガーを追いやってしまうのだろうか？

私の中のエドガーは成長することなく、私の生き方を問いかけ続けて来る。

「もう、後戻りは出来ないんだぜ。いいのか？　このまま終わっても………」

小池修一郎

一九五五年、東京生まれ。七七年、慶應義塾大学卒業後、宝塚歌劇団入団。八六年『ヴァレンチノ』で脚本・演出家としてデビュー。九一年『華麗なるギャツビー』で菊田一夫演劇賞受賞。『PUCK』『JFK』『エリザベート』など新感覚の演出で注目される。宝塚以外でも高い評価を得、九二年、九三年、九八年と月刊「ミュージカル」演出家賞を受賞している。

小学館文庫

ポーの一族 1

1998年8月10日初版第1刷発行（検印廃止）
2001年12月1日　　第7刷発行

著　者 ―――――― 萩尾望都

発行者 ―――――― 辻本吉昭

印刷所 ―――――― 図書印刷株式会社

発行所 ―――――― 株式会社　小学館
101-8001　東京都千代田区一ツ橋 2-3-1
振替（00180-1-200）
TEL　販売 03-3230-5749
　　　編集 03-3230-5456

ISBN 4-09-191251-6

●赤石路代
フェアレディは涙をながす 全1巻
P.A.(プライベートアクトレス) 全4巻
「あると」の「あ」 全2巻
ないしょのハーフムーン 全3巻
姫100% 全2巻

●秋里和国弐(秋里和国)
TOMOI(トモイ) 全1巻
THE B.B.B.(ザばっくれバークレーボーイ) 全6巻
それでも地球は回ってる 全3巻
花のO-ENステップ 全4巻

●あだち充
初恋甲子園 全1巻
泣き虫甲子園 全3巻
夕陽よ昇れ!! 全1巻
陽あたり良好! 全3巻
スローステップ 全4巻

●石塚夢見
ピアニシモでささやいて 全4巻

●楳図かずお
洗 礼 全4巻

●おおや和美
世紀末てっぺんBOY 全3巻
QP(キューピー) 全1巻

●岡野玲子
ファンシィダンス 全5巻

●木原敏江
雪紅皇子(ゆきくれないのみこ) 全1巻
鵺(ぬえ) 全3巻
渕(ふち)となりぬ 全3巻
風恋記 全3巻
ベルンシュタイン 全1巻
とりかえばや異聞 全1巻
大江山花伝 全1巻
青頭巾 全1巻
岩を枕に星を抱き 全1巻

●くさか里樹
片翼同盟 全4巻

●さいとうちほ
青りんご迷宮 全1巻
もう一人のマリオネット 全4巻
円舞曲は白いドレスで 全4巻

●佐藤史生
夢みる惑星 全3巻
ワン・ゼロ 全3巻
ワン・ゼロ番外編 打天楽 全1巻
精霊王 全1巻

●篠原千絵
闇のパープル・アイ 全7巻
そして5回の鈴が鳴る 全1巻
蒼の封印 全7巻
陵子の心霊事件簿 全2巻
海の闇、月の影 全11巻
凍った夏の日 全1巻

●諏訪 緑
玄奘西域記 全2巻

●惣領冬実
ボーイフレンド 全6巻
3-THREE 全8巻
彼女がカフェにいる 全4巻
天然の娘さん 全1巻

●竹宮惠子
私を月まで連れてって! 全4巻
疾風(かぜ)のまつりごと 全2巻

●田村由美
巴がゆく! 全5巻
きねづかん 全1巻
通り魔1991 全1巻
天使かもしれない 全1巻
ビショップの輪 全1巻
ボクが泥棒になった理由 全4巻

●名香智子
レディ・ギネヴィア 全1巻
花の美女姫 全3巻
PARTNER(パートナー) 全8巻
ファンション・ファデ 全4巻

●西 炯子
僕は鳥になりたい 全1巻

●萩尾望都
11人いる! 全1巻
スター・レッド 全1巻
トーマの心臓 全1巻
訪問者 全1巻
11月のギムナジウム 全1巻
ゴールデンライラック 全1巻
半 神 全1巻
とってもしあわせモトちゃん 全1巻
恐るべき子どもたち 全1巻
ウは宇宙船のウ 全1巻
ポーの一族 全3巻
Marginal(マージナル) 全3巻
フラワー・フェスティバル 全1巻
ローマへの道 全1巻
感謝知らずの男 全1巻
完全犯罪フェアリー 全1巻
イグアナの娘 全1巻
海のアリア 全2巻

●波津彬子
パーフェクト・ジェントルマン 全1巻
お目にかかれて 全1巻
異国の花守 全1巻

●藤田和子
ライジング! 全7巻

ポーの一族

——ぼくたちが ながい旅に 出ることも わかるね
……うん
なにも 思い出さ なくても いいことも?
……うん
……では この雨が やんだら 出発 しよう
そこに 見える 人形は なんなの… それも 夢かな…
リデル人形だよ
いっしょに つれていく ぼくたちで 育てよう
花畑の まんなかで とんぼがえりする コピトを見た
それが 神話の 始まり
夜の庭には 月に踊る妖精 死んだ子どもには バラの茎根を ナルキッソスには 白い花嫁を